

## 4. インタビュー調査

### 4.1 インタビュー調査実施概要

アンケート調査の結果を踏まえ、実態の背景や詳細を把握するため、定時制課程あるいは通信制課程を有する高等学校へのインタビュー調査を実施した。

調査対象を以下に示す。

図表 4-1 インタビュー調査対象と取組概要

種別	学校名	取組概要
定時制/公立	東京都立桐ヶ丘高等学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・ I 部、II 部、III 部とも同じ教科目を設置している。他部の履習を最大 10 単位まで認め、他部履習により 3 年で卒業できる。</li><li>・ 単位制総合学科であり、多様な選択科目を設置している。</li></ul>
通信制/私立	東海大学附属望星高等学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・ メディア活用として、レポート提出状況、スクーリング出欠状況、成績を家庭から確認できる。</li><li>・ NPO 法人と連携した体験型講座として「親子で農業体験」、「望星の森」を実施している。</li></ul>
通信制/公立	静岡県立静岡中央高等学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「放送視聴へのポータル機能の充実に関する研究」実施。NHK 高校講座の認知・受講率向上の取組みを進める。</li><li>・ 静岡県教育委員会「県立高等学校不登校生徒等支援プログラム研究モデル事業」を実施。NPO が実施するボランティアや就労支援プログラムを「学校外の学修」として単位に認める。</li></ul>

### 4.2 調査結果

#### 4.2.1 東京都立桐ヶ丘高等学校

##### (1) 学校の特徴

東京都が設置したチャレンジスクール<sup>6</sup>の第一号として平成 12 年度に開校した。昼夜開講 3 部制の定時制課程であり、単位制の総合学科を有す。福祉・教養系列、情報・ビジネス系列、アート・デザイン系列の 3 系列の教科・科目を設置している。

チャレンジスクールのコンセプトを継承しつつ、新たな方向性として、「キャリア教育の充実」と「生徒の学校生活の活性化」を経営方針の柱に末、社会的・職業的に自立していける生徒の育成を目指している。

##### (2) 学びを継続させるための取組

同校では、他部の履修を単位として認める取組、多様な選択科目の配置と少人数指導、ボラン

<sup>6</sup>高等学校を中途退学した生徒や小・中学校時代に不登校を経験した生徒を含め、これまでの教育の中では自己の能力や適性を十分に生かすできなかった生徒など、多様な生徒の入学を想定し、東京都が設置している高等学校。

ティア活動や福祉活動などの体験学習等の重視と学校外の学修の単位認定等を通じ、生徒が目的を持って学習を継続できるような取組を進めている。

これらの具体的な取組は以下のとおりである。

#### ①他部の履修を単位として認める取組

同校は3部制を採用しており、Ⅰ部（午前）、Ⅱ部（午後）、Ⅲ部（夜間）のうち学びたい部を選んで所属することとなっている。他部の履修も認めており、所属する部以外の授業を履修し、年間最大10単位まで単位が認定される（他部履修）。約6割の生徒が他部履修を行っており、3年で卒業する生徒のほとんどは他部履修を行っているとのことである。資格取得につながるもの、実技・実習が充実しているものに人気があり、他部履修と単位制により、好きなときに好きな科目を好きなだけ勉強できる環境を用意することで、生徒に対し学習の動機づけを図っている。

#### ②多様な選択科目の配置と少人数指導

同校は総合学科（普通科目と専門学科の科目履修）として、普通高校に比べて多様な教科・科目を設置している。計約70科目を配置し、特に商業、家庭、美術分野で選択科目を充実させている。生徒による履修選択の支援として、全生徒を対象とした履修説明会の開催のほか、「カウンセリングウエーク」を年4回設け、担任教員やパーソナルチューター（生徒が相談したい教員を指名して登録）が生徒との面接にあたり、そこで履修相談を含めた幅広い相談業務を行っている。また、通常の高校ではクラスの定員は30名程度だが、同校ではきめこまやかな指導を目指し、科目の定員を15～20名程度に絞り運用を行っている。

#### ③体験学習等の重視と学校外の学修の単位認定

弾力的な単位認定を行っており、その一環として、学校外の学修等による単位認定を行っている。具体的には以下の取組を実施している。

- 学校間連携による単位認定
- 専修学校等における単位認定（連携している専修学校で受講した時間数により単位を認定）
- 技能審査の成果の単位認定（簿記検定等の資格取得による単位認定）
- ボランティア活動の単位認定（2年間に一定の時間数に達した場合、単位を認定）
- 実務代替による単位認定（継続的に正社員またはアルバイトとして働いている生徒を対象に単位を認定）
- インターンシップによる単位認定
- 短期集中活動による単位認定

このうち、短期集中活動による単位認定については、チャレンジスクールにのみ認められている制度で、体験学習を重視するというチャレンジスクールのコンセプトに基づき導入されている。同校においては、スキルアップレッスン（資格取得のための講習）の受講、スタディアップレッスン（大学等への進学希望者向けに行う講習）の受講、ウィンタースポーツ教室、水泳教室、自然体験教室等が行われた。

## 4.2.2 東海大学付属望星高等学校

### (1) 学校の特徴

昭和 34 年に東海大学付属高等学校通信教育部として開設され、昭和 38 年に東海大学付属望星高等学校として独立校となる。高校通信教育講座の視聴による学習を中心とする放送教育コース、週 4 日間登校して学習を進める平日教育コース、専修学校の専門科目も合わせて学習する技能連携コースの 3 コースからなる。

同校は、設立以来、文部科学省認可の高校通信教育講座（放送講座）による学習内容の提供を行っているのが特徴で、現在は、インターネット配信による講座提供を行っている。

### (2) メディア活用の取組

同校は、放送講座の提供において歴史を有し、昭和 34 年から FM 東海を通じて講座を提供してきた。その後、平成 7 年には衛星ラジオによる提供を開始した。放送講座は、同校独自のもので、校内のスタジオで収録し、専任の技術員により編集され、配信されてきた。放送講座及びレポート作成と添削や、スクーリングは同一教員により行う仕組みとなっており、これにより、生徒の個々の実情に応じたきめ細やかな指導展開につながっている。

平成 14 年度には、インターネットの普及状況を踏まえ、ラジオで提供してきた放送講座のストリーミング配信を開始した。その後、在校生等の家庭におけるパソコン及びインターネットの接続環境等の状況調査を実施し、その結果を踏まえ、2007 年度から、放送聴取に加え、画像を提供できるオンデマンド放送を数科目で試行した。その後、2010 年度は 1 年次必修科目を対象に広げ、2012 年度には、全年次履修科目で実施する予定としている。

同校のインターネット配信による講座提供の特徴は以下のとおりである。

#### ①講座の概要

コンテンツは、音声、文字、画像、動画からなり、半年間 2 単位分で、30 分×18 本のコンテンツとなる。制作手順は、科目担当教員が原稿とスライドの制作を行い、専任技術スタッフが科目担当教員の音声収録及びオープニング・エンディング映像の収録・編集を行う。最終的には、科目担当教員がこれら素材を統合し、サーバにアップロードすることで配信が可能になる。

#### ②インターネットの活用範囲

大きく、インターネットによる視聴学習、レポートの添削指導、スクーリング（面接指導）、試験の 4 段階を経て、生徒は単位を取得するが、同校では、インターネットの活用を視聴学習にとどめ、レポートの添削指導については、手書きのやりとりによるコミュニケーションを重視し、あえて電子化せず、紙媒体の郵送による方法を採用している。

1 講座は 30 分で、生徒は 1 日に 1～2 講座を視聴する。講座の視聴により、スクーリングは最大 6/10 免除される。

講座の提供以外では、LMS（学習管理システム）上に、Q&A の機能を提供しており、生徒と教員はそこを通じて質疑を行える仕組みとなっている。

#### ③学事システムによる履修状況等の管理

履修登録やレポートの提出状況やスクーリングの出席状況は学事システムにより管理している。履修登録については、生徒に対する全体指導及び担任教員による個別指導を通じて決定された履

修科目を担当教員が学事システムに登録している。レポートの提出状況の管理については、レポートに付されたバーコードを事務職員が読み取ることで学事システムに登録している。また、教員が添削し、評価をつけた後、事務職員が生徒にレポートを返却している。これらの履修登録及び日々の学習状況（レポート提出状況、評価、スクーリングの欠席）などは担任、科目担当者及び生徒が閲覧できる仕組みとなっている（生徒はホームページを通じて閲覧）。なお、認証は ID とパスワードにより管理されている。

#### ④受講状況の把握方法

メディアの活用によるスクーリングの免除においては、受講の本人確認が重要となる。同校における本人確認の方法は、システム面では生徒の ID とパスワードによる認証のみとし、講座で提供する内容に直結した課題（受講しないと回答できない課題）をレポートや試験で示し、一方で、レポート作成を、本人を特定できる手書きとすることで対応している。

#### ⑤著作権の管理

BGM で流す音楽や教材に添付する写真等について、著作権上問題がないか判断が難しい場合があるが、学内に著作権を担当する教員を配置し、個々の教員がコンテンツ作成時に迷った際には、この教員に相談しながら判断している。

### (3) メディア活用の効果

インターネットによる講座配信を本格的な取組から 1 年を経過しておらず、現段階での評価は難しいが、レポートの提出率はあがっているとのことである。また、教員や生徒からは繰り返し学習ができることの利便性が評価されているとのことである。なお、教員からは、生徒一人ひとりの状況に応じた教育の提供や継続的な学習につなげる動機づけにあたり、質問対応やレポートの作成支援が重要になるが、その際に、迅速かつ個別対応を実現できるメディア活用の有効性が指摘されており、この点に関しては、e-ラーニングの有効的な活用について、学習効率と効果の側面から内容の精査、検討が行われている。

## 4.2.3 静岡県立静岡中央高等学校

### (1) 学校の特徴

平成 5 年開校で、単位制による定時制課程(定員 160 名)と単位制による通信制課程(定員 1,000 名)を設置している。県下初の単位制高等学校である。

定時制課程については、普通科ではあるものの商業・工業科目も開講している。生徒は a（午前）、b（午後）、c（夜間）のいずれかのコースに所属し、自コースから 20 単位、他コースから最大 12 単位、合計年間 30 単位を限度に履修する。c コースを除き、 Semester 制を導入している。科目履修生の受け入れや生涯学習講座を開講し、幅広い年代（15～60 代）の多様な生徒が共に学んでいる。

通信制課程については、スクーリングは日、水、木曜日に実施している。スクーリング会場は 3 箇所、中央キャンパス（静岡県立静岡中央高等学校）、東部キャンパス（静岡県立三島長陵高等学校併置）、西部キャンパス（静岡県立新居高等学校併置）である。幅広い年代（15～70 代）の多様な生徒がそれぞれの目的を持ち、自分のペースで学習している。

## (2) メディアの活用

通信制では、メディアの活用として、NHK 高校講座の視聴をスクーリング時数として認定している。また、学校独自のウェブ教材も有する。

学校独自のウェブ教材の作成は、平成 16 年度緊急地域雇用創出特別基金事業を利用し、外部発注により実施した。具体的には、職員が紙ベースで教材を作成提出し、作成業者とのヒアリングを重ねながらウェブ教材化したというものである。教材構成は作成全科目統一で、「10 分教材、確認問題、10 分教材、確認問題、提出レポート」となっている。学習時間と確認問題等の履歴及び提出レポートを、スクーリング認定の根拠としている。

教材作成についての課題として、教員はウェブ教材の特性を理解していないため、教材をデザインし、具体化していくことが難しいこと、作成業者は e-learning に精通しているわけではなく教材のウェブ化に的確なアドバイスができないこと、教員だけでは教材の更新や新規開発は難しいことなどが挙げられる。運用についての課題としては、校内にサーバを置くことで専門知識をもった管理担当者が必要になる点である。

平成 25 年度以降のシステムの継続については未定である。したがって、新学習指導要領に対応した教材作成についても未定である。運用開始後 7 年間に経過する中で、不登校など様々な状況の生徒に対して、一定の有効性があった。一方で、その間に NHK 講座のウェブサイト化、無料で動画を公開・閲覧できる You Tube や Ustream など新たなウェブサービスが登場し、学校を取り巻く環境は大きく変化した。このため、今後は校内で開発・運用するのではなく、外部の資源を有効に利用しながら、持続可能な形態を考えていく必要があると考えている。

## (3) 不登校生徒等支援プログラム研究モデル事業

県立高等学校不登校生徒等支援プログラム研究モデル事業は、県が神奈川県を取組等を参考に不登校などの傾向がある生徒が多い通信制課程をモデルとして、「校外での体験活動を通して人間関係づくりや自己肯定を促進し、社会性を回復していくきっかけになることを期待した事業」である。不登校を経験した生徒等に対する支援として、NPO 等が提供する支援プログラムを、「学校外の学修」に位置付けて単位認定することの効果及び課題等について研究するものである。神奈川県に続いて全国で 2 例目となる取組で、静岡市、沼津市などのフリースクール、NPO 法人 7 団体が体験プログラムを用意している。通信制課程の平成 23 年度入学生を対象とし、参加者は 13 名で、2 つのプログラムが実施された。単位取得者は 9 名で、うち 4 名は他の学習単位は取っておらず、本年度はこの活動による単位のみ修得であった。

学校としては、支援プログラムの内容は生徒の意欲関心を高め、自己肯定感の回復を促進する効果があり、2 つのプログラムは、それぞれの手法を活かした企画だったと考えている。また、学校と NPO 法人とが直接情報交換できる場を持って研修すること、連携をとること等で互いの組織のプラスとなった。

生徒に対しては、体験活動を定期的に継続することは忍耐や努力を要し、社会性を回復する入り口となると考える。達成感や喜びの他に、責任感を感じた生徒もいた様子であった。即社会性回復につながるか、また他の学習にも取り組むきっかけになるかは、もう少し事例を見る必要があると評価しているとのことである。

## 5. 通信制・定時制高等学校の実態及び課題

---

### 5.1 通信制・定時制高等学校の実態

#### 5.1.1 定時制高等学校の実態及び課題

- ・ 定時制高等学校では、勤労生徒の割合は低い一方で、日本語教育について支援を必要とする外国籍の生徒、特別な支援を必要とする生徒、不登校経験を有する生徒の在籍割合が高くなっており、多様な生徒が在籍していることが明らかになった。特に、多部制の定時制高等学校では、多部制ではない定時制高等学校と比較して、不登校経験を有する生徒の割合が高く、中退率が低く、卒業後の就職割合が低く、卒業後の進学割合が高くなっていることが明らかになった。
- ・ 教員研修・研究については、特別支援教育に関すること、生徒へのカウンセリングに関すること、生徒指導に関することの実施割合が高い。これらは、前述の多様な生徒像に応じ、学校側が対応を進めていることの顕れとみてとれる。
- ・ 教育内容について重視していることについては、生徒の状況の把握、学習意欲の維持、キャリア教育、授業における少人数指導などが挙げられた。この背景には、多様な生徒像への対応として、一人一人の状況に応じた教育の実現、学習の動機づけ、就職支援等が教育上の課題として認識されていることがあると考えられる。

#### 5.1.2 通信制高等学校の実態及び課題

##### (1) 通信制高等学校の実態

- ・ 通信制高等学校においては、勤労生徒の割合は低い一方で、特別な支援を必要とする生徒、不登校経験を有する生徒の在籍割合が高くなっている。また、通信制高等学校では、定時制高等学校と比較して、卒業後の就職割合が低く、卒業後の進学割合が高くなっている。
- ・ 教員研修・研究については、生徒へのカウンセリングに関すること、各教科の指導に関すること（面接指導）、特別支援教育に関することの実施割合が高い。また、教育内容について重視していることについては、生徒の状況の把握、学習意欲の維持、レポート課題などの添削指導、キャリア教育が挙げられた。レポート課題などの添削指導等、通信制課程に特有の内容も含まれるものの、定時制課程と同様に、多様な生徒像への対応として、一人一人の状況に応じた教育の実現、学習の動機づけ、就職支援等が教育上の課題として認識されていることがあると考えられる。
- ・ 通学による面接指導については、週2回以上のコースが35.9%を占めるなど、通学頻度の高いコースもある。通信教育を基本とする従来の通信制の形態とは異なる教育を行っている学校が一定数あることが確かめられた。
- ・ メディアの活用については、行っている学校が66.2%であり、NHK 高校講座の放送視聴（テレビ、ラジオ、ウェブサイト）の割合が高い。双方向での活用を行う学校は少数にとどまる。
- ・ 公立の通信制高等学校は、平成22年度の卒業生数/生徒数の割合が20%以下である学校が85%を占めるなど、3年ないし4年での卒業が困難であることが推測される。また、生徒数が多い中で、学習実績のない在籍者も一定数を占めるなど、個別の生徒のフォローが課題となっていると推測される。

## 參考資料

# 1. アンケート調査票

## 1.1 定時制高等学校用アンケート調査票

### 定時制課程・通信制課程の在り方に関するアンケート調査

・ご回答は、該当する番号を○で囲むものと、具体的にご記入いただくものがあります。○をつける数は、設問中に当てはまるもの全てに○をつけてくださいと指定があるものは「該当するもの全てに○」を、特に指定がない場合は「もっとも当てはまる番号 1 つに○」をご記入下さい。

・また、「その他( )」とある場合は、( )内に具体的な内容をご記入下さい。

・特に指定がない場合、2011 年 5 月 1 日時点の状況をご回答ください。

・貴校に定時制以外の課程が併設されている場合も、貴校の定時制課程のみの状況について、ご回答ください。

#### ■貴校定時制課程の概要についてお聞きします。

問1 貴校の設置者をお答えください。

1. 都道府県立                      2. 私立

問2 貴校に併設された課程等をお答えください。

1. 単独校として設置  
2. 全日制併設  
3. 通信制併設  
4. 全日制・通信制併設

問3 貴校は多部制を導入していますか。導入している場合、具体的な状況をお答えください。

1. 導入している    ⇒    昼間 (     ) 部、夜間 (     ) 部  
2. 導入していない

問4 多部制における教育課程編成方針があれば概要をご教示ください。

問5 貴校の修了年限をお答えください。

1. (3 年)                              2. (4 年)

問6 貴校は生徒用の寮または寄宿舎等を整備していますか。

1. している                              2. していない

#### ■生徒の実態についてお聞きします。

問7 日本語教育について支援を必要とする外国籍の生徒は在籍していますか。在籍している場合、人数をお答えください。

1. 在籍している ⇒ (            ) 名
2. 在籍していない

問8 貴校に在籍する生徒の年齢をお聞きします。(2011年5月1日時点)

15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳以上
名	名	名	名	名	名	名	名
在籍生徒合計		(            )名					

問9 貴校の学級数及び生徒数をお答えください。(平成21～23年度)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
学級数	クラス	クラス	クラス
生徒数	名	名	名
学習実績のある生徒数(※)	名	名	名

※実際の単位習得有無にかかわらず、授業に出席するなど、各年度において貴校の教育を受けた生徒を指します。ただし、履修登録をしていない生徒、出席実績のない生徒等は含みません。

問10 貴校への転学・編入学の状況をお答えください。(平成21～23年度)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
転学(転入学)	名	名	名
うち全日制課程(国公立)から	名	名	名
うち全日制課程(私立)から	名	名	名
うち定時制課程(国公立)から	名	名	名
うち定時制課程(私立)から	名	名	名
うち通信制課程(国公立)から	名	名	名
うち通信制課程(私立)から	名	名	名
編入学	名	名	名
うち全日制課程(国公立)の中途退学により	名	名	名
うち全日制課程(私立)の中途退学により	名	名	名
うち定時制課程(国公立)の中途退学により	名	名	名
うち定時制課程(私立)の中途退学により	名	名	名
うち通信制課程(国公立)の中途退学により	名	名	名
うち通信制課程(私立)の中途退学により	名	名	名
その他	名	名	名
中学卒業後、他の高等学校には在籍せず、一定期間をおいての入学	名	名	名

問11 貴校の生徒の就労状況についてお答えください。(2011年5月1日時点)

正社員	派遣・契約社員	パート・アルバイト	自営業 (手伝いを含む)	就労していない
名	名	名	名	名

問12 貴校の入学考査等の状況をご教示ください。(平成21～23年度)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
入学志願者数	名	名	名
合格者数	名	名	名
入学者数	名	名	名

問13 貴校の生徒の中退者人数をお答えください。(平成 21～23 年度)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
中退者人数	名	名	名

問14 貴校の生徒の卒業状況についてお答えください。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
卒業者数	名	名	名
うち進学 (大学・短大・専 修学校を含む)	名	名	名
うち就職	名	名	名
その他	名	名	名

問15 貴校には特別な支援を必要とする生徒(※)はどのくらい在籍していますか。

※特別な支援を必要とする生徒とは、特別支援学校・学級・通級に在籍経験を有する生徒だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた、すべての障害のある生徒を指します。診断・申告を受けている生徒だけでなく、学校において何らかの支援対象としている生徒全てを含みます。

1. 0%	2. 1～10%	3. 11～20%	4. 21～30%	5. 31～40%
6. 41～50%	7. 51～60%	8. 61～70%	9. 71～80%	10. 81～90%
11. 91～100%				

問16 貴校には前在籍校等で不登校経験を有する生徒(※)はどのくらい在籍していますか。

※不登校経験を有する生徒とは、前在籍校等(貴校転入学前に在籍していた学校(中学校・高等学校)、把握している場合はその他の学校(小学校等)も含む)において「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」であった生徒を指します。

1. 0%	2. 1～10%	3. 11～20%	4. 21～30%	5. 31～40%
6. 41～50%	7. 51～60%	8. 61～70%	9. 71～80%	10. 81～90%
11. 91～100%				





## 1.2 通信制高等学校用アンケート調査票

### 定時制課程・通信制課程の在り方に関するアンケート調査

- ・ご回答は、該当する番号を○で囲むものと、具体的にご記入いただくものがあります。○をつける数は、設問中に当てはまるもの全てに○をつけてくださいと指定があるものは「該当するもの全てに○」を、特に指定がない場合は「もっとも当てはまる番号1つに○」をご記入下さい。
- ・また、「その他( )」とある場合は、( )内に具体的な内容をご記入下さい。
- ・特に指定がない場合、2011年5月1日時点の状況をご回答ください。
- ・貴校に通信制以外の課程が併設されている場合も、貴校の通信制課程のみの状況について、ご回答ください。

#### ■貴校の概要についてお聞きします。

問1 貴校の設置者をお答えください。

1. 都道府県立                      2. 私立                      3. 株立

問2 貴校の通学区域をお答えください。

1. 広域（「学校教育法第54条3項」に定められた広域通信制課程）  
2. その他

問3 貴校に併設された課程等をお答えください。

1. 単独校として設置                      2. 全日制併設  
3. 定時制併設                      4. 全日制・定時制併設

問4 貴校の修了年限をお答えください。

1. (3年)                      2. (4年)

問5 貴校は面接指導時に生徒が利用する寮または寄宿舎等を整備していますか。

1. している                      2. していない

#### ■生徒の実態についてお聞きします。

問6 海外在住生徒は在籍していますか。在籍している場合、人数をお答えください。

1. 在籍している ⇒ (                      ) 名  
2. 在籍していない

問7 日本語教育について支援を必要とする外国籍の生徒は在籍していますか。在籍している場合、人数をお答えください。

1. 在籍している ⇒ (                      ) 名  
2. 在籍していない

問 8 病弱者（慢性の心臓、肺、腎臓などの疾患で、6か月以上の入院、または生活規制の必要な子ども）に該当する生徒は在籍していますか。在籍している場合、人数をお答えください。

1. 在籍している ⇒ (                    ) 名
2. 在籍していない

問 9 貴校に在籍する生徒の年齢をお聞きします。(2011年5月1日時点)

15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳以上
名	名	名	名	名	名	名	名

問 10 貴校の学級数及び生徒数をお答えください。(平成21～23年度)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
生徒数	名	名	名
学習実績のある生徒数(※)	名	名	名

※面接指導への出席、添削指導の課題提出などにより貴校の教育を受けた生徒を指します。実際の単位習得の有無は問いませんが、履修登録や課題提出を一切していない生徒は含みません。

問 11 貴校への転学・編入学の状況をお答えください。(平成21～23年度)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
転学(転入学)	名	名	名
うち全日制課程(国公立)から	名	名	名
うち全日制課程(私立)から	名	名	名
うち定時制課程(国公立)から	名	名	名
うち定時制課程(私立)から	名	名	名
うち通信制課程(国公立)から	名	名	名
うち通信制課程(私立)から	名	名	名
編入学	名	名	名
うち全日制課程(国公立)の中途退学により	名	名	名
うち全日制課程(私立)の中途退学により	名	名	名
うち定時制課程(国公立)の中途退学により	名	名	名
うち定時制課程(私立)の中途退学により	名	名	名
うち通信制課程(国公立)の中途退学により	名	名	名
うち通信制課程(私立)の中途退学により	名	名	名
その他	名	名	名
中学卒業後、他の高等学校には在籍せず、一定期間をおいての入学	名	名	名

問 12 貴校の入学考査等の状況をご教示ください。(平成21～23年度)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
入学志願者数	名	名	名
合格者数	名	名	名
入学者数	名	名	名

問 13 貴校の生徒の就労状況についてお答えください。(2011年5月1日時点)

正社員	派遣・契約社員	パート・アルバイト	自営業 (手伝いを含む)	就労していない
名	名	名	名	名

問 14 貴校の生徒の中退者人数をお答えください。(平成21～23年度)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
中退者人数	名	名	名

問 15 貴校の生徒の卒業状況についてお答えください。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
卒業者数	名	名	名
うち進学 (大学・短大・専 修学校を含む)	名	名	名
うち就職	名	名	名
その他	名	名	名

問 16 貴校には特別な支援を必要とする生徒(※)はどのくらい在籍していますか。

※特別な支援を必要とする生徒とは、特別支援学校・学級・通級に在籍経験を有する生徒だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた、すべての障害のある生徒を指します。診断・申告を受けている生徒だけでなく、学校において何らかの支援対象としている生徒全てを含みます。

1. 0%	2. 1～10%	3. 11～20%	4. 21～30%	5. 31～40%
6. 41～50%	7. 51～60%	8. 61～70%	9. 71～80%	10. 81～90%
11. 91～100%				

問 17 貴校には不登校経験を有する生徒(※)はどのくらい在籍していますか。

※不登校経験を有する生徒とは、前在籍校等(貴校転入学前に在籍していた学校(中学校・高等学校)、把握している場合はその他の学校(小学校等)も含む)において「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」であった生徒を指します。

1. 0%	2. 1～10%	3. 11～20%	4. 21～30%	5. 31～40%
6. 41～50%	7. 51～60%	8. 61～70%	9. 71～80%	10. 81～90%
11. 91～100%				

■教育内容・指導方法についてお聞きします。

問 18 添削指導についてお聞きします。「添削指導の課題」の回答方式について、当てはまるもの全てに○をつけてください。また、その大まかな割合もお答えください。

1. 選択式(マークシート方式)	( )%
2. 選択式(マークシート以外によるもの)	( )%
3. 記述式	( )%
4. 論述式	( )%
5. その他( )	( )%

問 19 添削指導の方法について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

担当者	1. 本校(本部)の教員が実施 2. 分校等の面接指導及び試験を行う施設の教員が実施 3. その他( )
方法	4. レポートの採点を行って返却する 5. レポートに正解を記載して返却する 6. レポートに解説を付して返却する 7. レポートについて対面(面接指導または補習等)で解説する 8. その他( )

問 20 通学による面接指導の実施状況についてお答えください。複数のコース等を有する場合は、それぞれについてお答えください。

コース名		日数
	コース	月/週( )日
	コース	月/週( )日
	コース	月/週( )日

問 21 集中スクーリングを実施していますか。実施している場合、その年間の日数をお答えください。

1. 実施している ⇒ 年( )日
2. 実施していない

問 22 同時に面接指導を受ける生徒数の下限・上限は設けていますか。設けている場合、その下限・上限をお答えください。

1. 設けている ⇒ 下限( )名、上限( )名
2. 設けていない

問 23 貴校ではメディアを利用した面接指導時間の免除を行っていますか。

1. 行っている ⇒ 計( )科目
2. 行っていない

問 24 免除に利用しているメディアの形態をお答えください。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 高校講座放送視聴(テレビ)
2. 高校講座放送視聴(ラジオ)
3. 高校講座ウェブサイト
4. DVD・ビデオによる授業映像等の配信(一方向)
5. インターネットによる授業映像等の配信(一方向)
6. 通信衛星による授業映像等の配信(一方向)
7. インターネットを利用した指導(ライブ方式)
8. インターネットを利用した指導(オンデマンド方式)
9. 通信衛星を利用した指導(双方向)
10. その他( )



問 26 メディア視聴の確認方法をお答えください。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 視聴票の提出により確認する
2. 双方向方式の一環としてリアルタイムで確認する
3. 「添削指導の課題」の中で確認する
4. その他 ( )

問 27 「メディアを利用した免除」以外の用途におけるメディアやインターネットの活用についてお聞きします。活用目的についてお答えください。

1. 学校での授業の教材として利用
2. 学校での補充・補習教材として利用
3. 家庭での補充・補習教材として利用
4. 生徒とのコミュニケーション手段として利用
5. 保護者とのコミュニケーション手段として利用
6. 生徒同士のコミュニケーション手段として利用
7. 添削課題の提出手段として利用
8. その他 ( )

問 28 メディアの活用について、工夫している内容があればその概要をお答えください。

■施設についてお聞きします。

問 29 貴校にて面接指導及び試験を行う施設について、該当施設数をご記入ください。

- |                |        |
|----------------|--------|
| 1. 本校          | ( 1 校) |
| 2. 分校          | ( 校)   |
| 3. 協力校         | ( 校)   |
| 4. 大学(短大含む)    | ( 校)   |
| 5. 専修学校        | ( 校)   |
| 6. 指定技能教育施設    | ( 校)   |
| 7. その他         | ( 校)   |
| ⇒(具体的な施設の種類: ) |        |

問 30 また、面接指導及び試験を行う各施設の概要をご教示ください。

※施設数が多く、回答欄が不足する場合には本ページをコピーするなどして、全ての施設についてご回答ください。また、下記事項がわかる資料等を同封することで回答に替えていただいてもかまいません。

本校	種別	本校	学則への記載 有無	有 / 無
	名称	—	設置者	—
	住所	—	面積	
	指導開始時期		利用生徒数	名
	教職員配置数	名(うち兼務者 名)		
	当該施設における 教育活動の内容			

施設 1	種別	分校 / 協力校 / 大学(短大含む) / 専修学校 / 指定技能教育施設 / その他	学則への記載 有無	有 / 無
	名称		設置者	
	住所		面積	
	指導開始時期		利用生徒数	名
	教職員配置数	名(うち兼務者 名)		
	当該施設における 教育活動の内容			

施設 2	種別	分校 / 協力校 / 大学(短大含む) / 専修学校 / 指定技能教育施設 / その他	学則への記載 有無	有 / 無
	名称		設置者	
	住所		面積	
	指導開始時期		利用生徒数	名
	教職員配置数	名(うち兼務者 名)		
	当該施設における 教育活動の内容			

施設 3	種別	分校 / 協力校 / 大学(短大含む) / 専修学校 / 指定技能教育施設 / その他	学則への記載 有無	有 / 無
	名称		設置者	
	住所		面積	
	指導開始時期		利用生徒数	名
	教職員配置数	名(うち兼務者 名)		
	当該施設における 教育活動の内容			

施設 4	種別	分校 / 協力校 / 大学(短大含む) / 専修学校 / 指定技能教育施設 / その他	学則への記載 有無	有 / 無
	名称		設置者	
	住所		面積	
	指導開始時期		利用生徒数	名
	教職員配置数	名(うち兼務者 名)		
	当該施設における 教育活動の内容			

問 31 貴校は技能教育施設と連携していますか。連携している場合、施設数をお答えください。

- |            |   |                |
|------------|---|----------------|
| 1. 連携している  | ⇒ | 技能教育施設数 ( ) 施設 |
| 2. 連携していない |   |                |

問 32 技能連携により認めている単位数をお答えください。

技能連携により認めている単位数	最大( )単位
-----------------	---------

問 33 貴校は民間教育施設（サポート校等）と連携していますか。連携している場合、施設数をお答えください。 ※何らかの関係の有する民間教育施設を全て含みます。

- |            |   |              |
|------------|---|--------------|
| 1. 連携している  | ⇒ | 連携施設数 ( ) 施設 |
| 2. 連携していない |   |              |

問 34 貴校が連携する主要な民間教育施設（サポート校等）で行う教育活動について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

※もっとも在籍人数の多い民間教育施設についてお答えください。

- |   |
|---|
| 1. メディアを利用した面接指導の受講環境の提供                    |
| 2. 「添削指導の課題」の作成にかかる支援                       |
| 3. 義務教育段階における学習内容の定着                        |
| 4. 大学受験・就職活動のための学習指導                        |
| 5. 学習指導以外の独自の教育活動(貴校が提供・支援するもの)             |
| 6. 学習指導以外の独自の教育活動(民間教育施設(サポート校等)が独自に実施するもの) |
| 7. その他( )                                   |

■多様な生徒への対応についてお聞きします。

問 35 特別な支援を必要とする生徒への対応について、実施していることがあれば、当てはまるもの全てに○をつけてください。

- |                         |
|-------------------------|
| 1. 個別の教育支援計画を策定・実施      |
| 2. 個別指導を実施              |
| 3. カウンセラーの配置            |
| 4. 外部の専門機関・専門家(医療関連)と連携 |
| 5. 外部の専門機関・専門家(福祉関連)と連携 |
| 6. 特別支援学校教諭免許状を有する教員が在籍 |
| 7. 特別支援学校と連携・情報共有       |
| 8. その他( )               |

問 36 多様な生徒への対応のため、貴校の教員研修・研究はどのようなテーマで実施していますか。過去1年間の状況について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1. 各教科の指導に関する事(面接指導)             |
| 2. 各教科の指導に関する事(添削指導)             |
| 3. 進学・就職指導に関する事(入学・就職試験対策等に関する事) |
| 4. 履修指導に関する事                     |
| 5. 生徒へのカウンセリングに関する事              |
| 6. 生徒指導に関する事                     |
| 7. 特別支援教育に関する事                   |
| 8. 特に実施していない                     |
| 9. その他( )                        |

問 37 貴校の教育の質の向上あるいは貴校の教員の資質向上のために課題となっている点や必要と考える支援策があれば、お答えください。

問 38 多様な生徒への対応のため、以下の活動について、貴校では特に何を重視されていますか。  
(該当するものに最大5つまで○)

1. 面接指導における少人数指導
2. 面接指導における習熟度別指導
3. 面接指導における個別・取り出し指導
4. 面接指導における介添え人・補助者等の配置
5. 特別活動に該当する活動の実施
6. 課外活動(部活動、課外授業等)の実施
7. レポート課題などの添削指導
8. 履修指導
9. 生徒の状況の把握、学習意欲の維持
10. 生徒へのカウンセリング
11. 義務教育段階における学習内容の定着
12. 高等学校卒業程度認定試験の対策指導
13. 大学受験の対策指導
14. キャリア教育(進学・就職指導、職場体験活動)
15. 専門的技術・資格の習得
16. 特別支援を要する生徒への対応
17. 外国籍の生徒のための日本語指導
18. 保護者への対応
19. その他( )

問 39 指導について、貴校において特に工夫していること、成果が出ている取組をお答えください。関連する資料等(パンフレット、チラシ等)があれば1部添付ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。  
(「面接指導及び試験を行う施設」「メディアを利用した免除の科目」  
「貴校の特色ある取組等に関する資料」をご同封の上、  
付属の返信用封筒にてご返送ください。)

### 1.3 広域通信制高等学校を有する都道府県の所管部署用アンケート調査票

#### 定時制課程・通信制課程の在り方に関するアンケート調査

- ・ご回答は、該当する番号を○で囲むものと、具体的にご記入いただくものがあります。○をつける数は、設問中に当てはまるもの全てに○をつけてくださいと指定があるものは「該当するもの全てに○」を、特に指定がない場合は「もっとも当てはまる番号 1 つに○」をご記入下さい。
- ・また、「その他( )」とある場合は、( )内に具体的な内容をご記入下さい。
- ・特に指定がない場合、2011 年 10 月 1 日時点の状況をご回答ください。

#### ■貴自治体の概要についてお聞きします。

問 1 貴自治体名の所管部局名をお書きください。

所管部局名		部/課
-------	--	-----

問 2 行政ご担当者の人員数をお答えください。

行政ご担当者数		人
---------	--	---

問 3 ご担当者は現配属の前に、教育関係の事務経験を有していましたか。

1. ほぼ全職員が有していた
2. 一部職員は有していた
3. 有していた者はいない

問 4 貴自治体が所管する広域通信制高等学校数をお書きください。

所管する広域通信制高等学校数		校
----------------	--	---

#### ■指導監督状況についてお聞きします。

問 5 貴自治体では、広域通信制高等学校の認可に際して、具体的な審査基準や調査マニュアル等を設けていますか。

1. 設けている	2. 設けていない
----------	-----------

問 6 貴自治体では、認可後の広域通信制高等学校の指導監督のための具体的な基準やマニュアルを設けていますか。

1. 設けている	2. 設けていない
----------	-----------

問 7 貴自治体では広域通信制高等学校に対して、訪問で指導等を行うことがありますか。

1. 定期的に訪問を行う
2. 必要があれば訪問を行う
3. その他 ( )

問 8 主な指導等の内容について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 経営の状況	2. 教育課程の実施状況
3. 面接指導・添削指導の実施状況	4. 生徒指導の状況
5. 履修管理の状況	6. 生徒募集の状況
7. 施設設備等の状況	8. 面接指導及び試験を行う施設等の状況
9. その他 (	)

■審議会等の状況についてお聞きします。

問 9 審議会の開催状況についてお伺いします。年間の開催回数をお書きください。

審議会の開催回数	回/年
----------	-----

問 10 委員の構成について当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 広域通信制高等学校の関係者	
2. 広域通信制高等学校について知見を有する有識者・研究者等	
3. 1.を除く学校（私立・公立学校等）の関係者	
4. 2.を除く大学等の有識者・研究者	
5. 企業等関係者	
6. 会計士・弁護士・監査等の専門家	
7. 社会教育関係者	
8. 保護者代表	
9. 住民代表	
10. その他 (	)

問 11 審議会等において、広域通信制高等学校について（個別の学校の設置、廃止、学校法人設立の認可に関する事項は除く）議題とすることがあります。その具体的な議事もお答えください。

1. ある ⇒ 具体的に (	)
2. ない	

問 12 広域通信制高等学校について、その状況を具体的に把握するために審議会に提出を求めている資料があれば、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 経営の状況	2. 教育課程の実施状況
3. 面接指導・添削指導の実施状況	4. 生徒指導の状況
5. 履修管理の状況	6. 生徒募集の状況
7. 施設設備等の状況	8. 運営状況の評価
9. 面接指導及び試験を行う施設等の状況	
10. その他 (	)

■学校設置による地域の変化、認可権者としての課題等についてお聞きします。

問 13 広域通信制高等学校が設置されたことによる貴自治体の状況について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 地域の他の学校（小中学校等）との交流・連携の発生・促進
2. 地域の施設（学校以外）との交流・連携の発生・促進
3. 貴自治体の生徒の当該校への入学促進
4. 他の自治体の生徒の受け入れ促進
5. 他の広域通信制高等学校（教育特区により設置された通信制高等学校）の設置促進
6. その他（ ）

問 14 広域通信制高等学校の認可権者として課題となっていることはありますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 許認可に関する審査基準の設定
2. 認可後の運営状況の評価に関する基準等の設定
3. 許認可後の学校への指導等
4. 面接指導及び試験を行う施設等の把握、指導等
5. 面接指導及び試験を行う施設等に在籍する生徒の把握
6. その他（ ）

問 15 広域通信制高等学校の各種制度に関する課題や求める支援策があれば、ご自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

## 1.4 認定地方公共団体の通信制高等学校所管部署用アンケート調査票

### 定時制課程・通信制課程の在り方に関するアンケート調査

- ・ご回答は、該当する番号を○で囲むものと、具体的にご記入いただくものがあります。○をつける数は、設問中に当てはまるもの全てに○をつけてくださいと指定があるものは「該当するもの全てに○」を、特に指定がない場合は「もっとも当てはまる番号 1 つに○」をご記入下さい。
- ・また、「その他( )」とある場合は、( )内に具体的な内容をご記入下さい。
- ・特に指定がない場合、2011年10月1日時点の状況をご回答ください。

#### ■貴自治体の概要についてお聞きします。

問1 貴自治体の所管部局名をお書きください。

所管部局名		部/課
-------	--	-----

問2 行政ご担当者の人員数をお答えください。

行政ご担当者数		人
---------	--	---

問3 ご担当者は現配属の前に、教育関係の事務経験を有していましたか。

1. ほぼ全職員が有していた
2. 一部職員は有していた
3. 有していた者はいない

問4 貴自治体が所管する教育特区により設置された通信制高等学校数をお書きください。

所管する教育特区により設置された通信制高等学校		校
-------------------------	--	---

#### ■指導監督状況についてお聞きします。

問5 貴自治体では、教育特区により設置された通信制高等学校の認可に際して、具体的な審査基準や調査マニュアル等を設けていますか。

1. 設けている
2. 設けていない

問6 貴自治体では、認可後の教育特区により設置された通信制高等学校の指導監督のための具体的な基準やマニュアルを設けていますか。

1. 設けている
2. 設けていない

問7 貴自治体では教育特区により設置された通信制高等学校に対して、訪問で指導等を行うことがありますか。

1. 定期的に訪問を行う
2. 必要があれば訪問を行う
3. その他 ( )

問 8 主な指導等の内容について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 経営の状況	2. 教育課程の実施状況
3. 面接指導・添削指導の実施状況	4. 生徒指導の状況
5. 履修管理の状況	6. 生徒募集の状況
7. 施設設備等の状況	8. 面接指導及び試験を行う施設等の状況
9. その他 (	)

■審議会等の状況についてお聞きします。

問 9 審議会の開催状況についてお伺いします。年間の開催回数をお書きください。

審議会の開催回数	回/年
----------	-----

問 10 委員の構成について当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 教育特区により設置された通信制高等学校の関係者	
2. 教育特区により設置された通信制高等学校について知見を有する有識者・研究者等	
3. 1.を除く学校（私立・公立学校等）の関係者	
4. 2.を除く大学等の有識者・研究者	
5. 企業等関係者	
6. 会計士・弁護士・監査等の専門家	
7. 社会教育関係者	
8. 保護者代表	
9. 住民代表	
10. その他 (	)

問 11 審議会等において、教育特区により設置された通信制高等学校について（個別の学校の設置、廃止、学校法人設立の認可に関する事項は除く）議題とすることがあります。その具体的な議事もお答えください。

1. ある ⇒ 具体的に (	)
2. ない	

問 12 教育特区により設置された通信制高等学校について、その状況を具体的に把握するために審議会に提出を求めている資料があれば、当てはまるもの全てに○をつけてください。

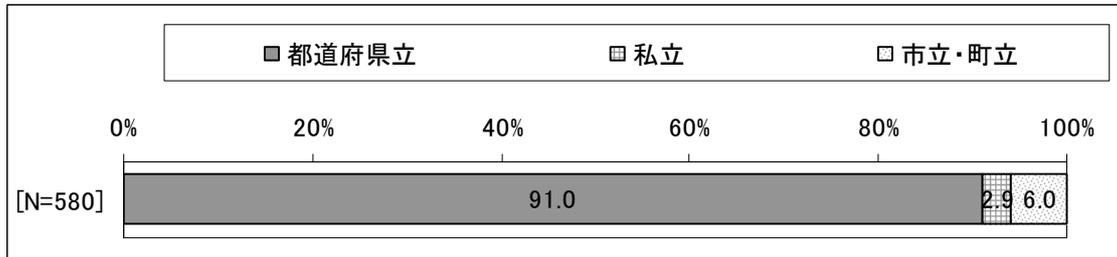
1. 経営の状況	2. 教育課程の実施状況
3. 面接指導・添削指導の実施状況	4. 生徒指導の状況
5. 履修管理の状況	6. 生徒募集の状況
7. 施設設備等の状況	8. 運営状況の評価
9. 面接指導及び試験を行う施設等の状況	
10. その他 (	)



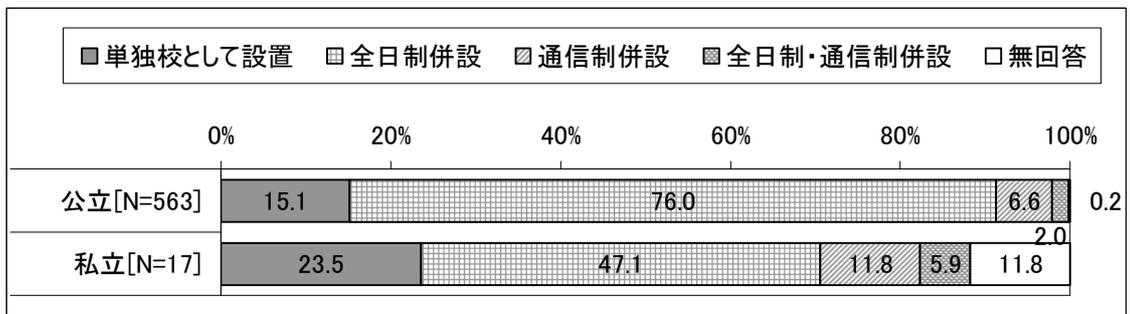
## 2. アンケートクロス集計結果

### 2.1 定時制課程(設置者別)

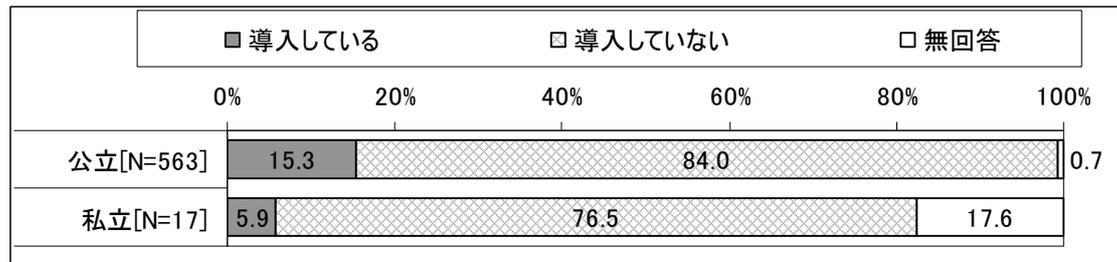
図表 1 設置者



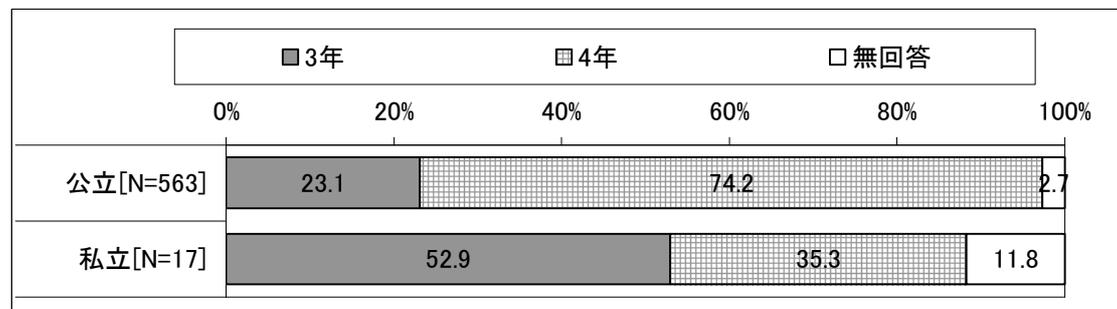
図表 2 併設された課程等



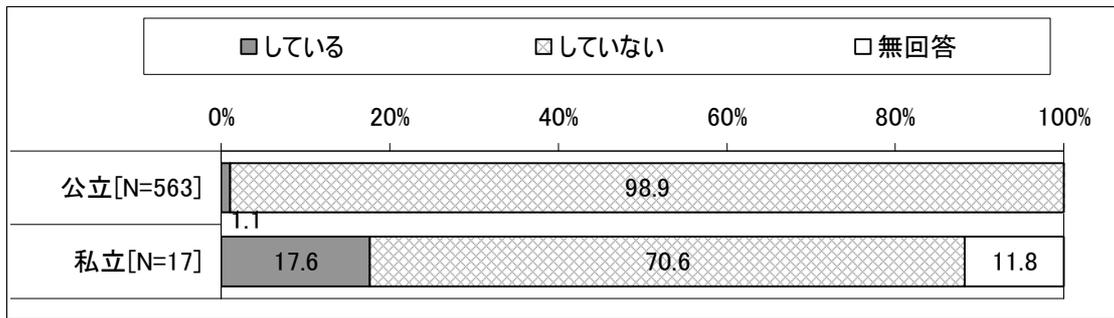
図表 3 多部制の導入



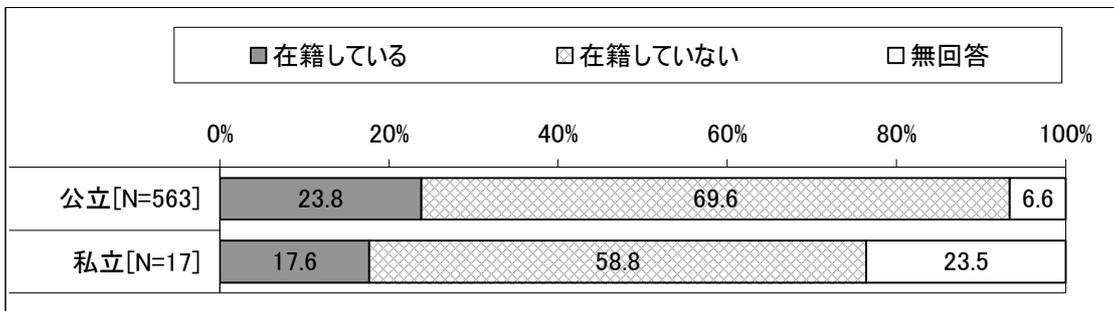
図表 4 修了年限



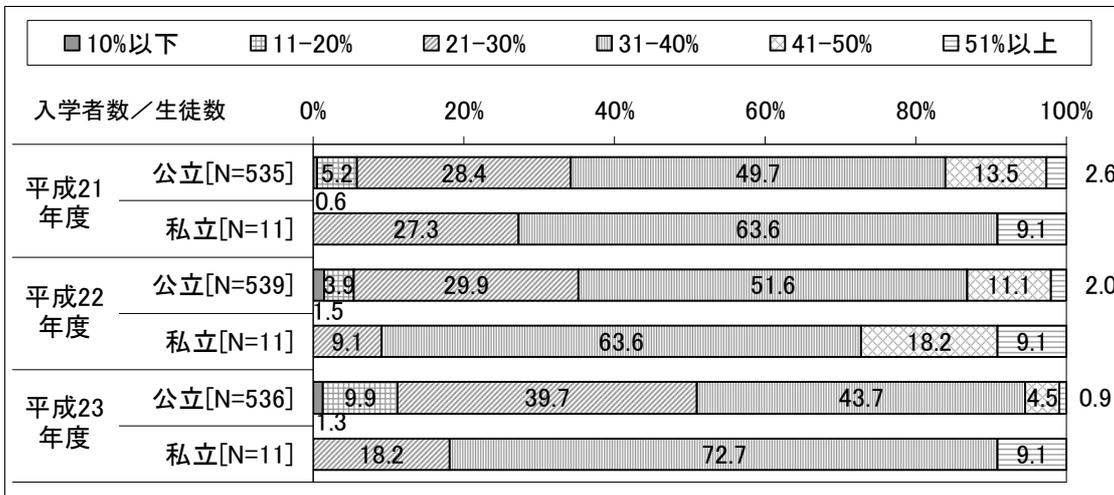
図表 5 生徒用の寮または寄宿舍等の整備



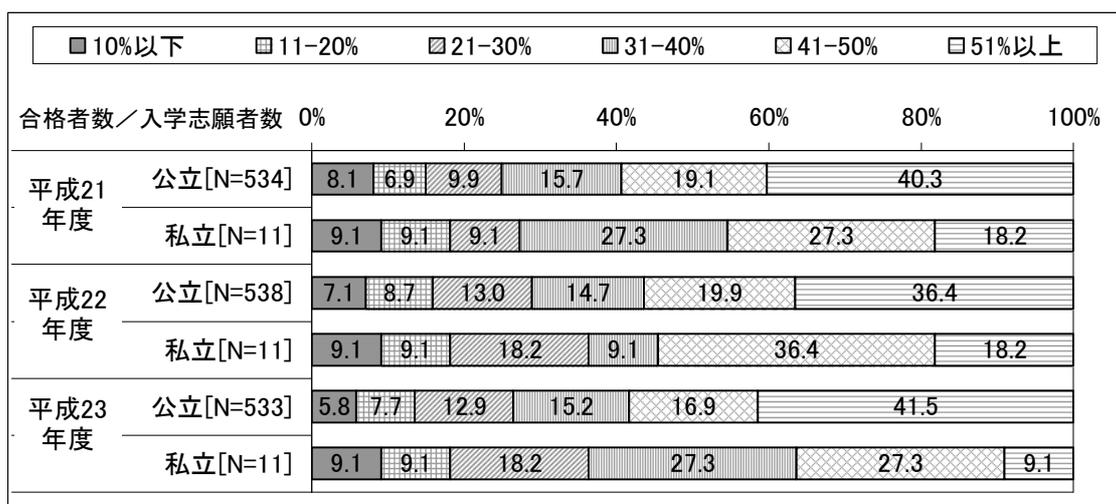
図表 6 日本語教育について支援を必要とする外国籍の生徒の在籍



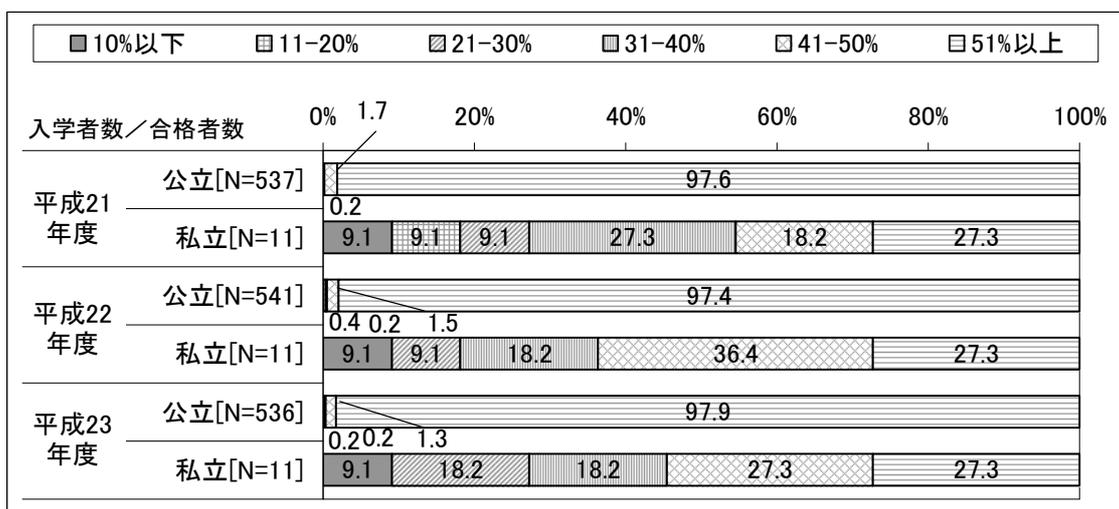
図表 7 生徒数に対する入学者数の割合



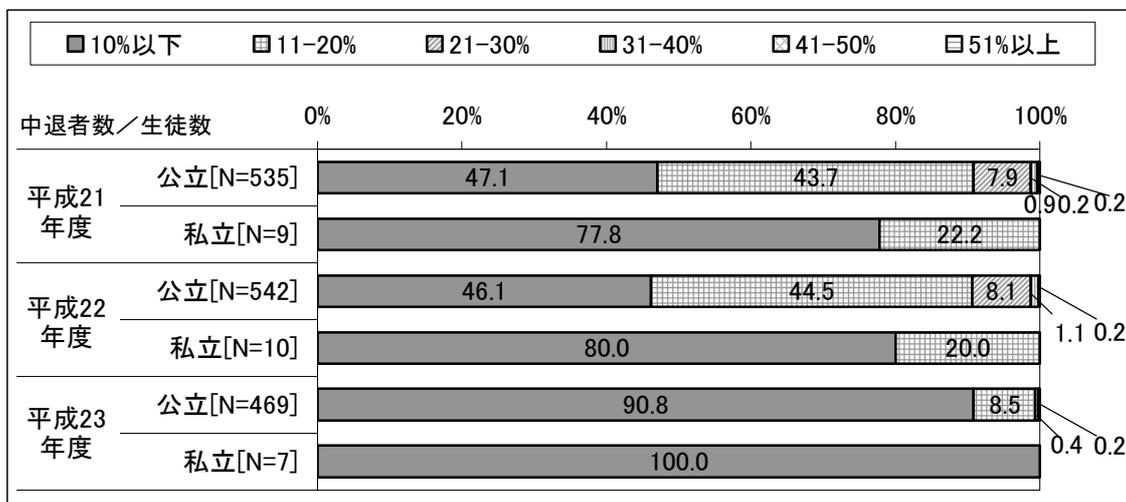
図表 8 入学志願者数に対する合格者数の割合



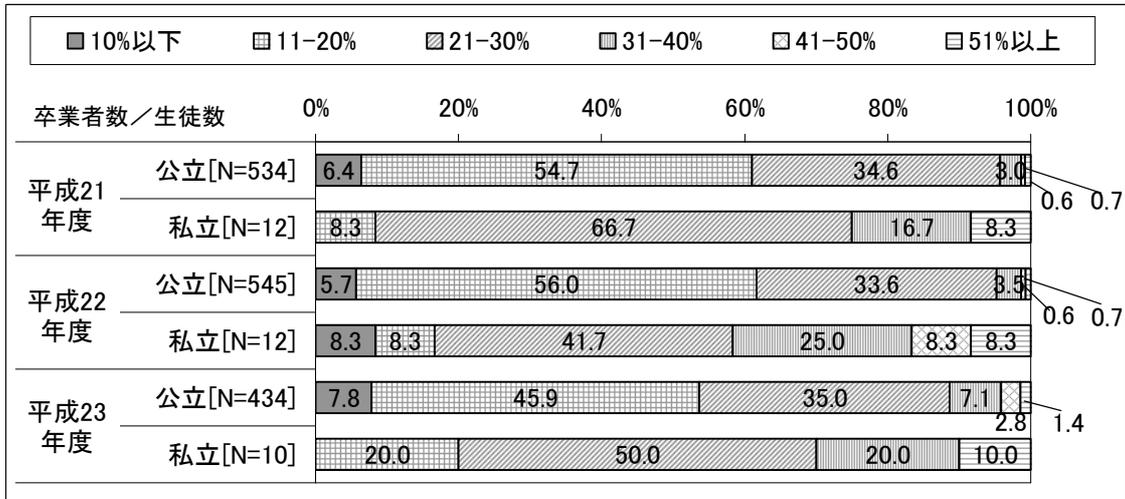
図表 9 合格者数に対する入学者数の割合



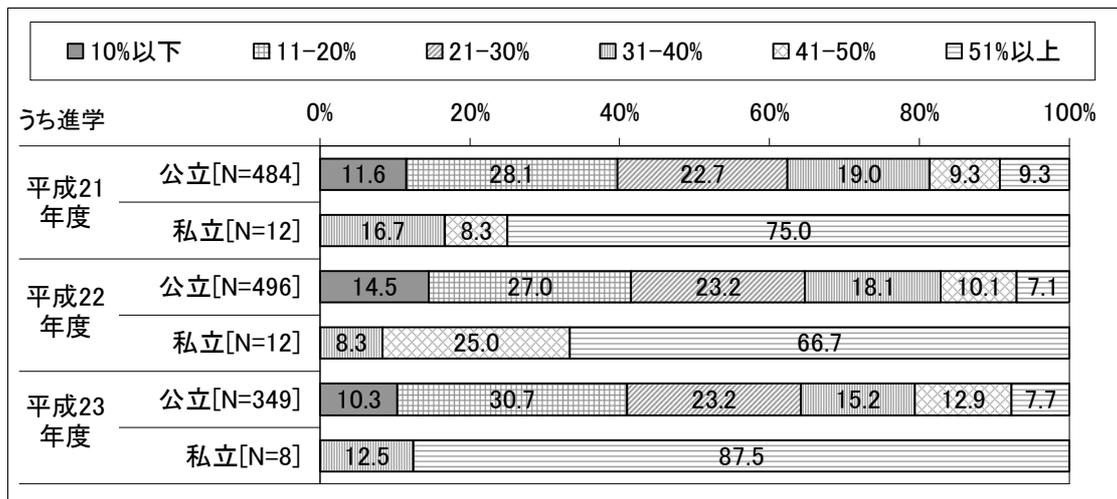
図表 10 生徒数に対する中退者数の割合



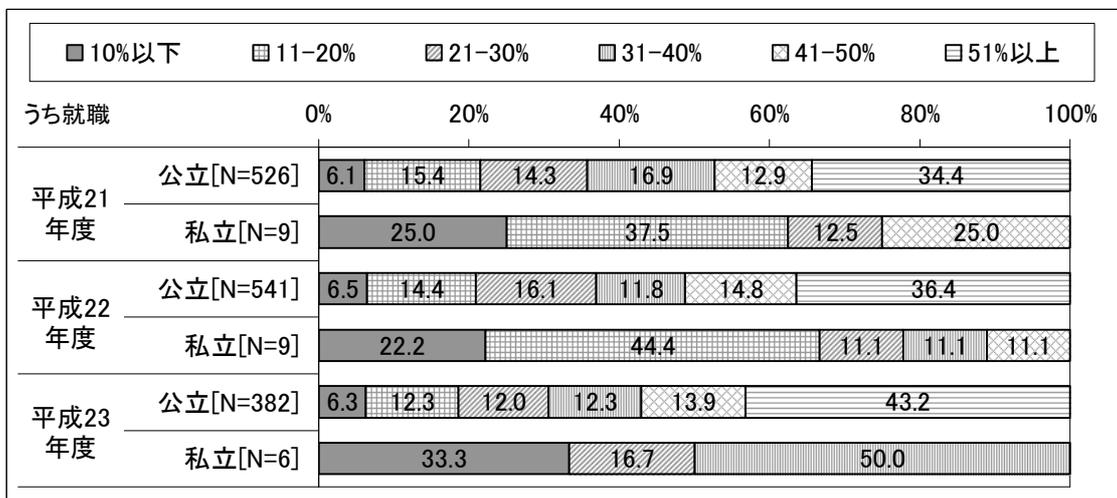
図表 11 生徒数に対する卒業生数の割合



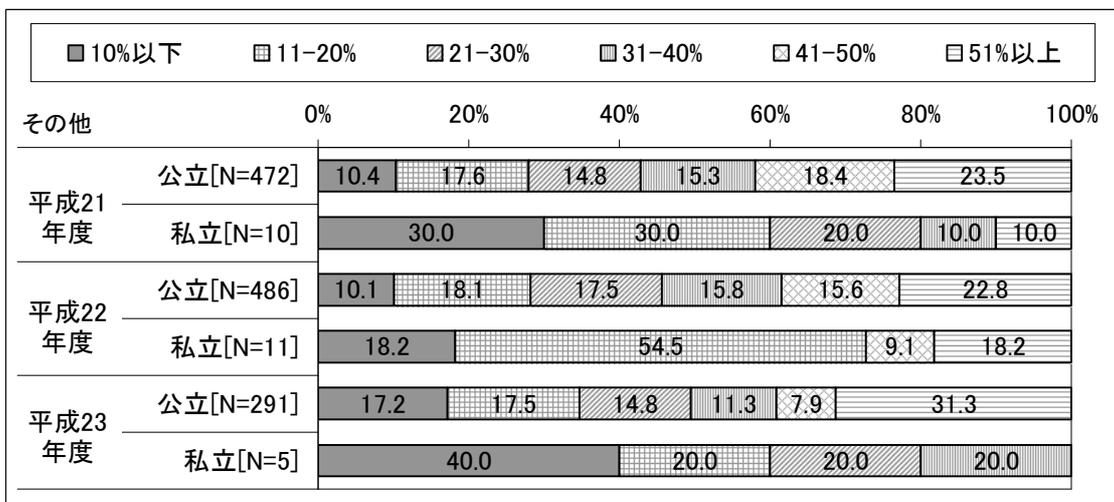
図表 12 卒業生数のうち進学者数の割合



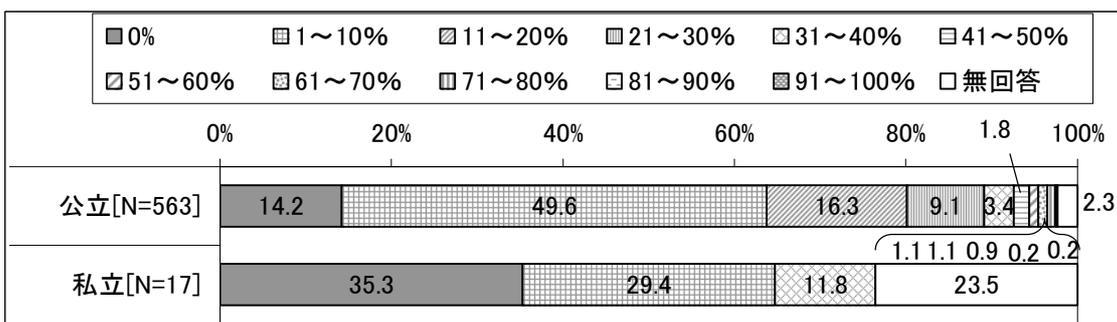
図表 13 卒業生数のうち就職者数の割合



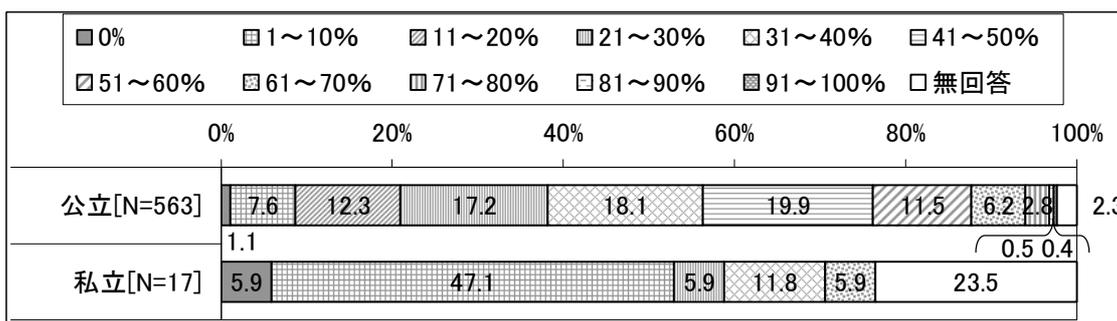
図表 14 卒業生数のうちその他の割合



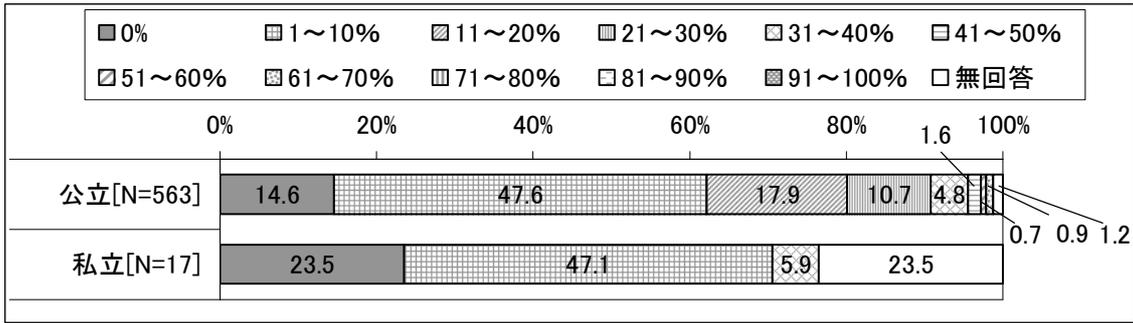
図表 15 特別な支援を必要とする生徒の在籍割合



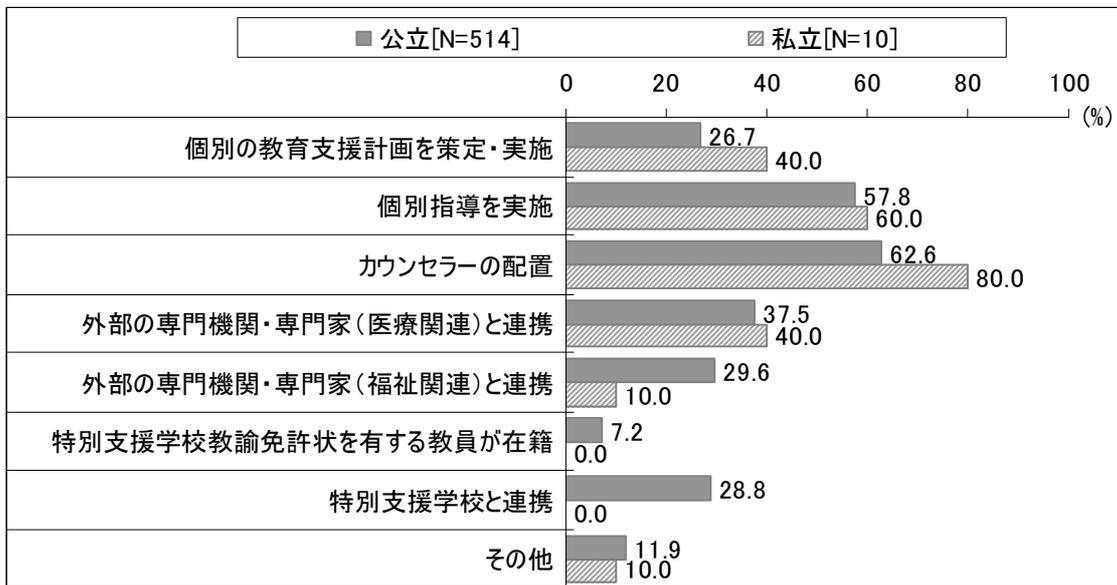
図表 16 前在籍校等で不登校経験を有する生徒の在籍割合



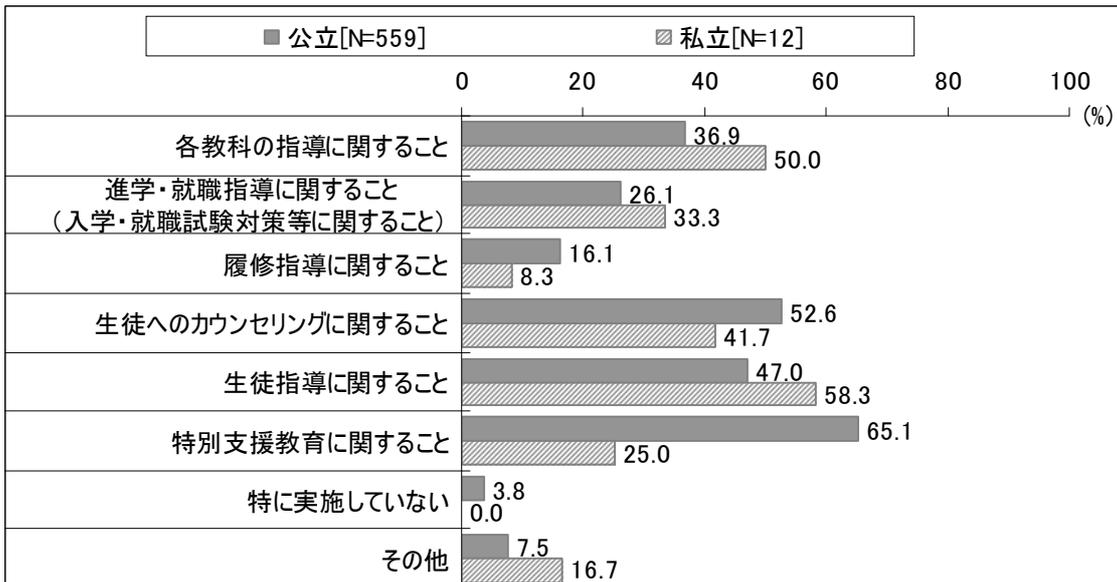
図表 17 不登校生徒の在籍割合



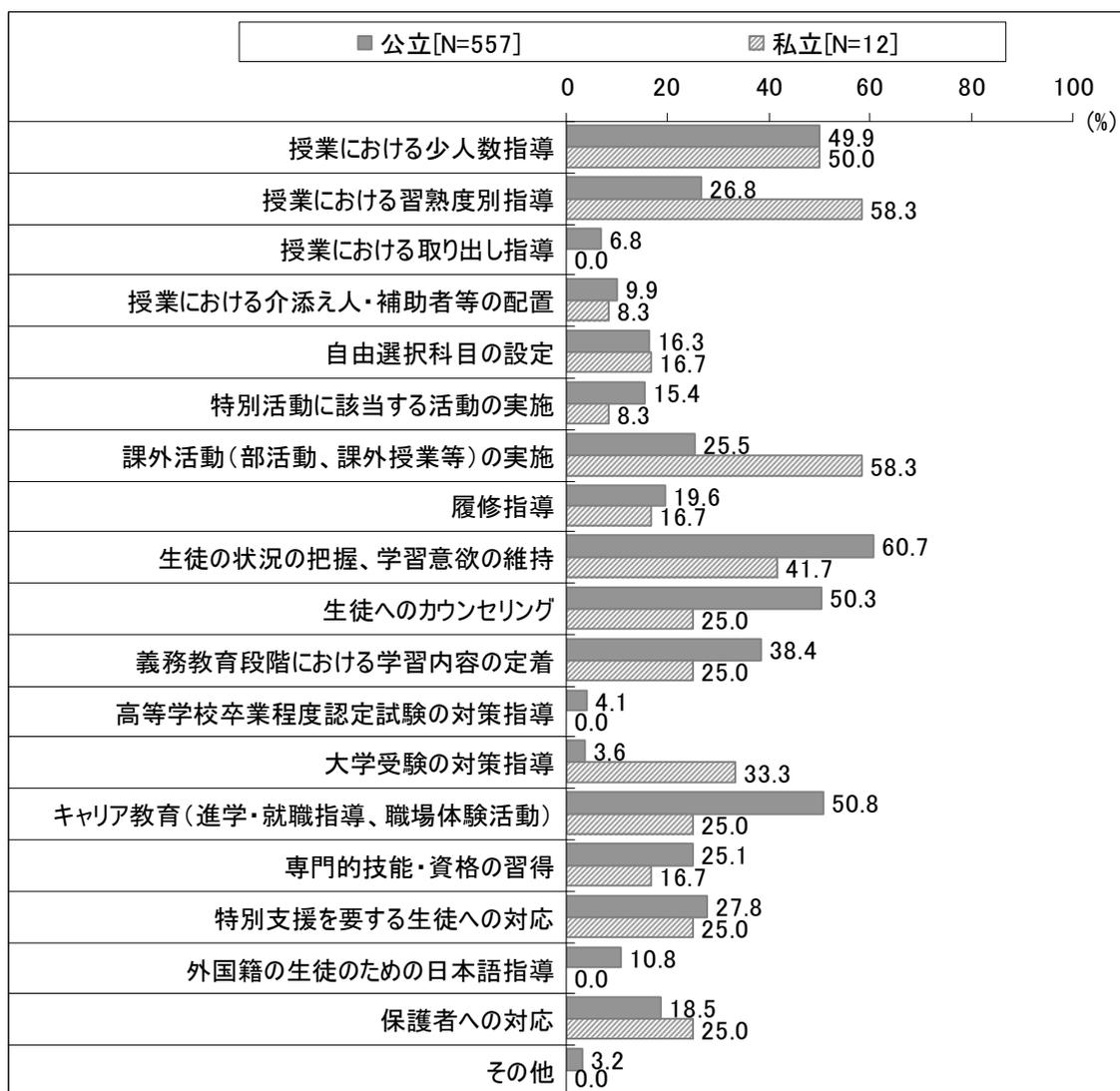
図表 18 特別な支援を必要とする生徒へ実施していること



図表 19 多様な生徒への対応のための教員研修・研究のテーマ(過去1年間の状況)

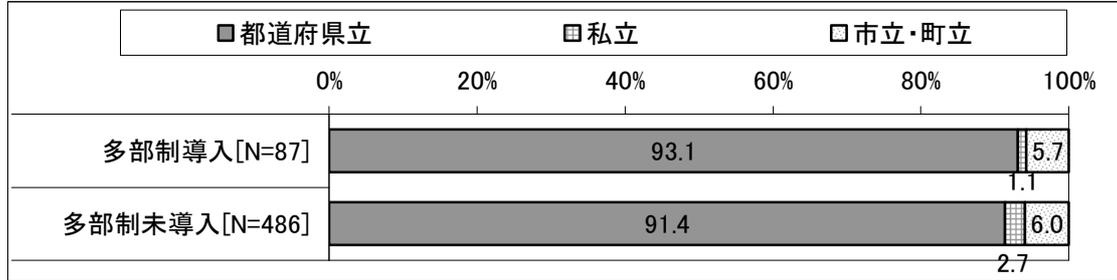


図表 20 特に重視している活動

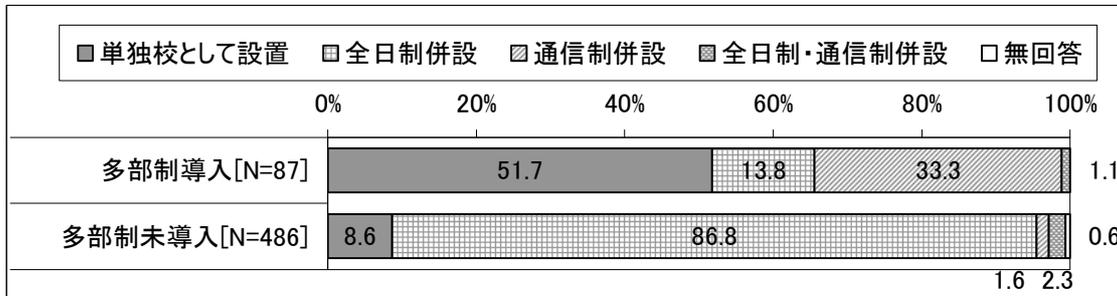


## 2.2 定時制課程(多部制有無別)

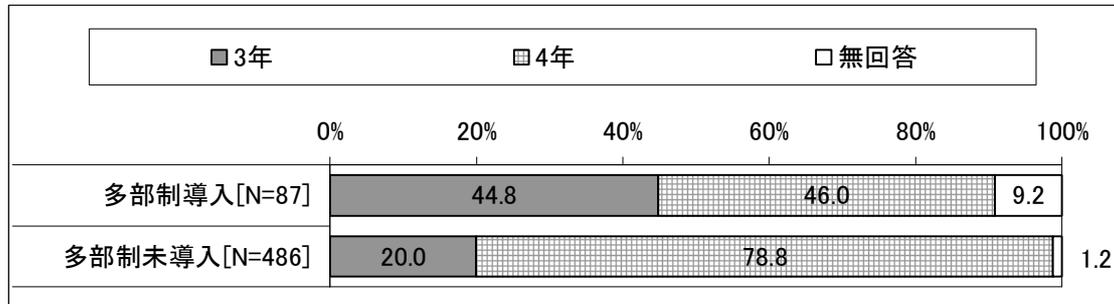
図表 21 学校設置者



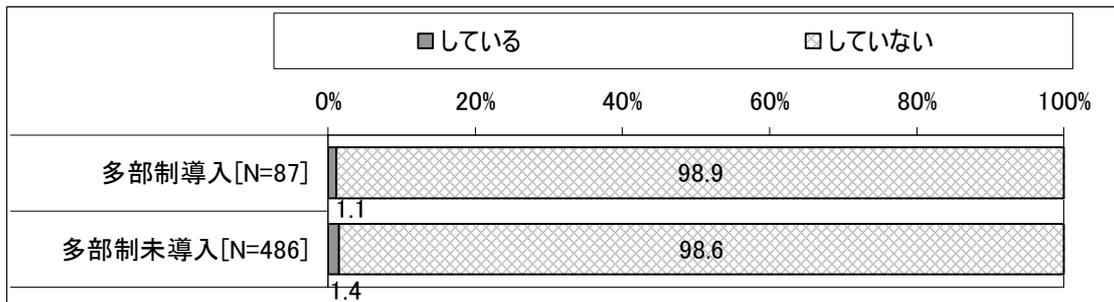
図表 22 併設された課程等



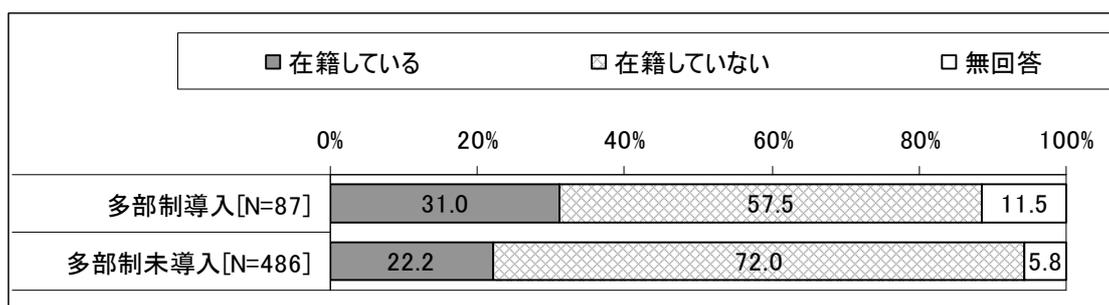
図表 23 修了年限



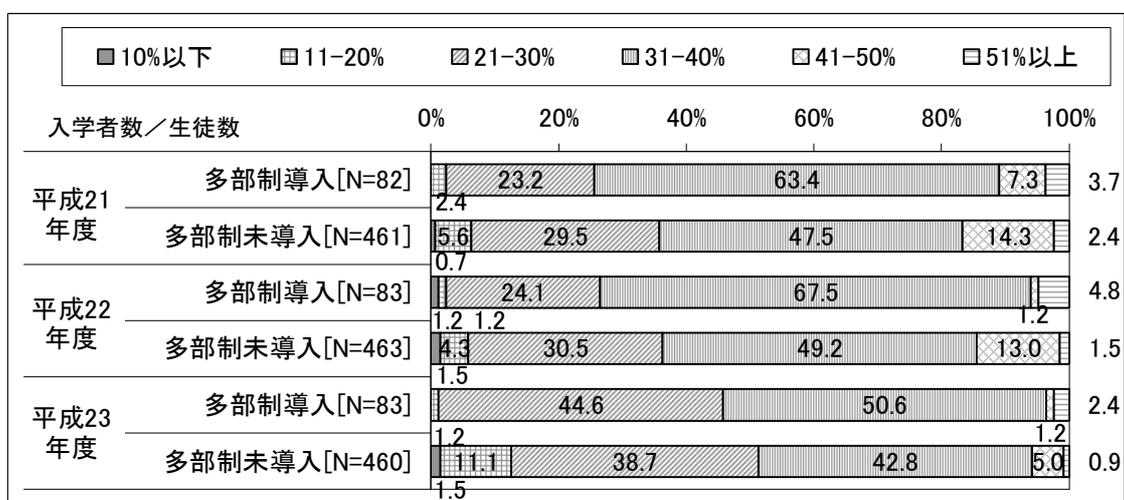
図表 524 生徒用の寮または寄宿舎等の整備



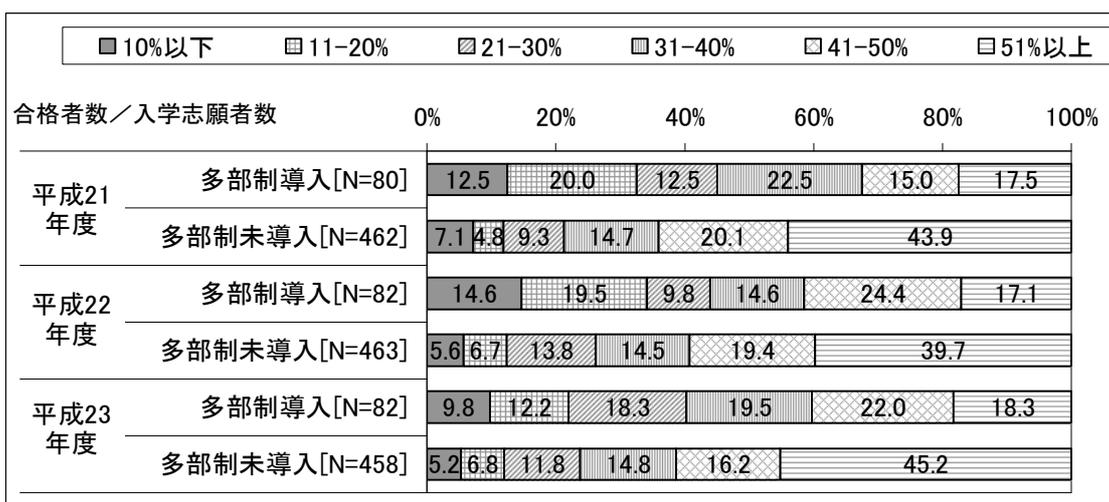
図表 25 日本語教育について支援を必要とする外国籍の生徒の在籍



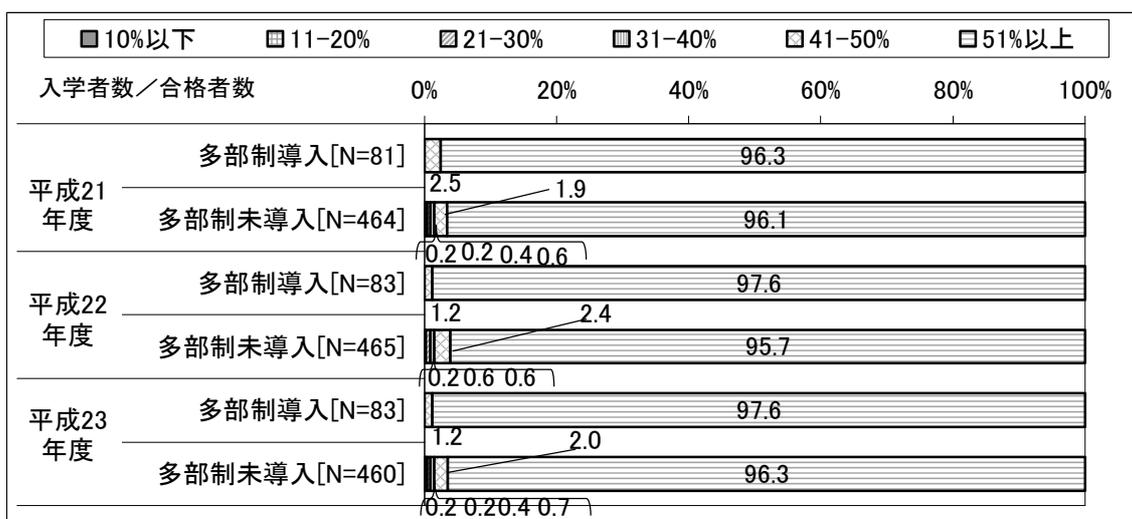
図表 26 生徒数に対する入学者数の割合



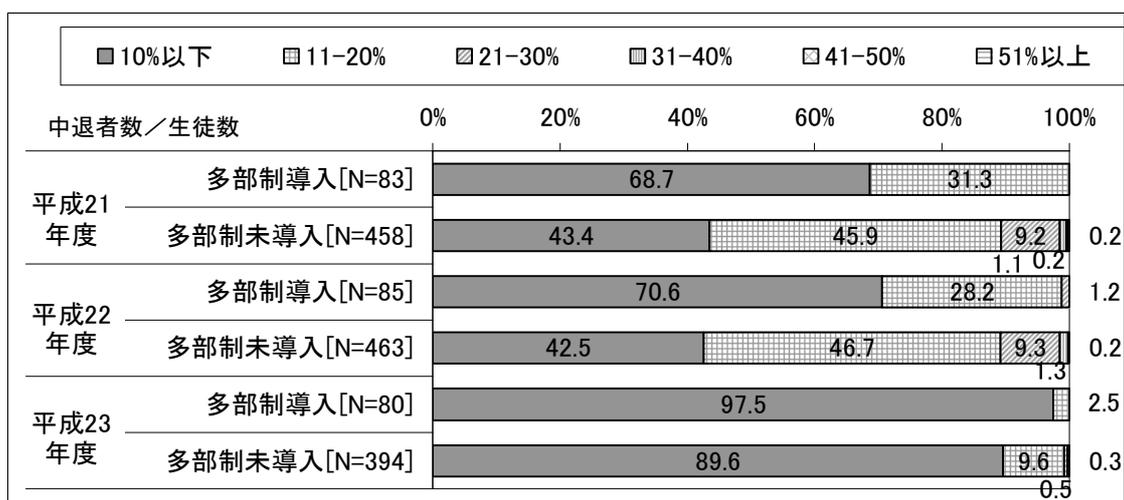
図表 27 入学志願者数に対する合格者数の割合



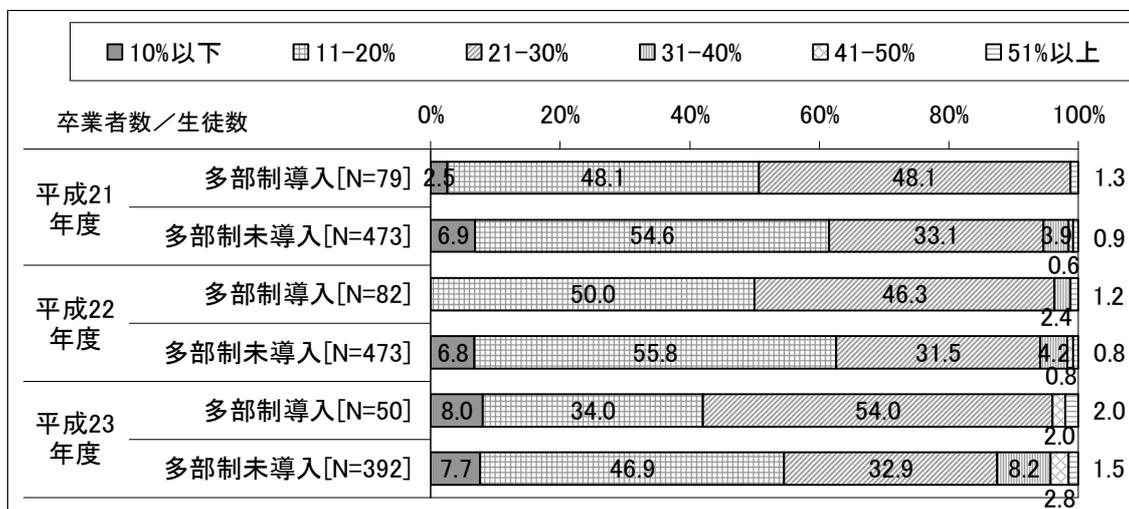
図表 28 合格者数に対する入学者数の割合



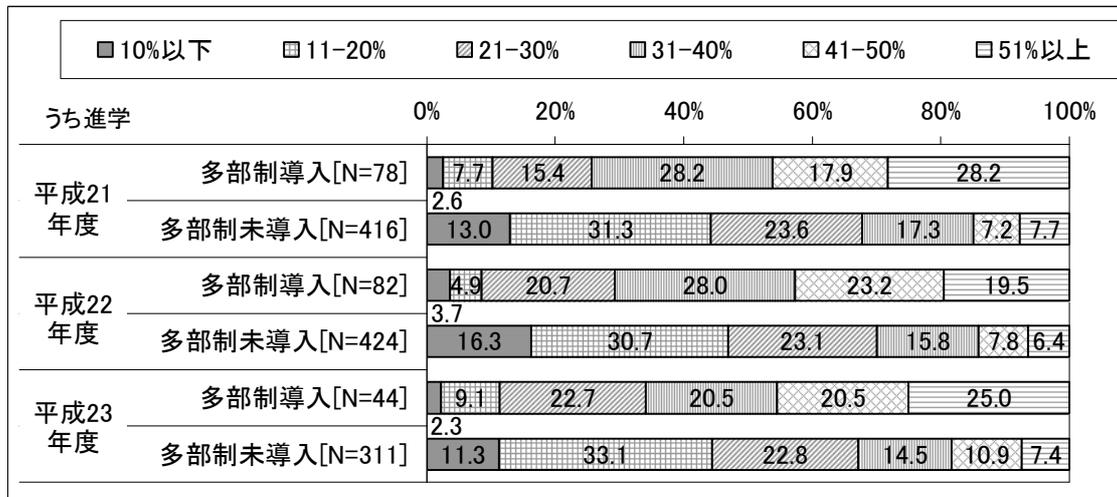
図表 29 生徒数に対する中退者数の割合



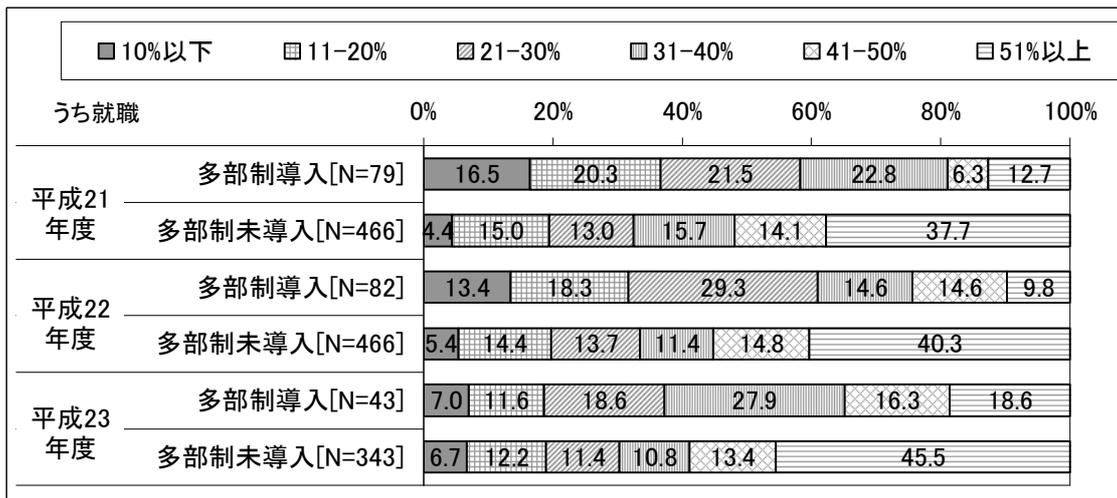
図表 30 生徒数に対する卒業生数の割合



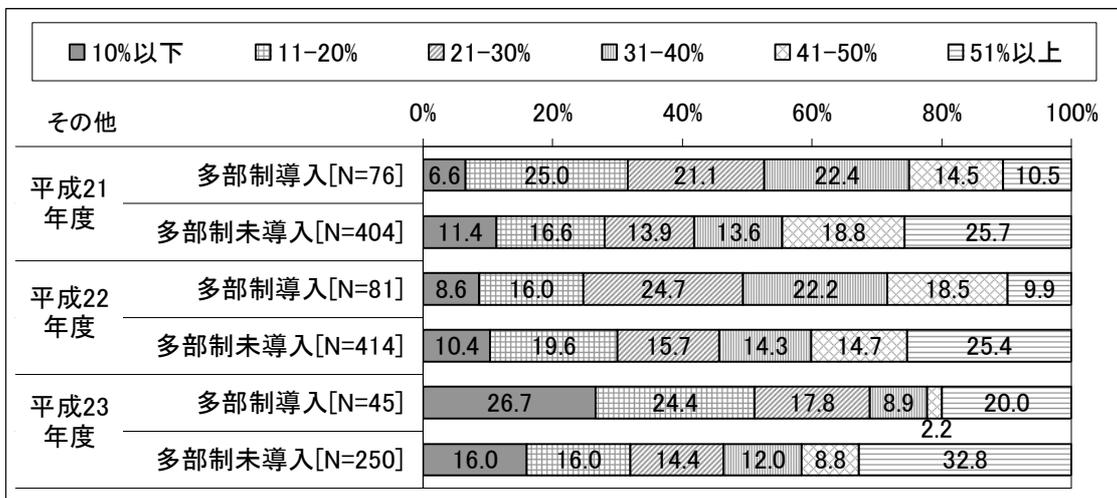
図表 31 卒業生数のうち進学者数の割合



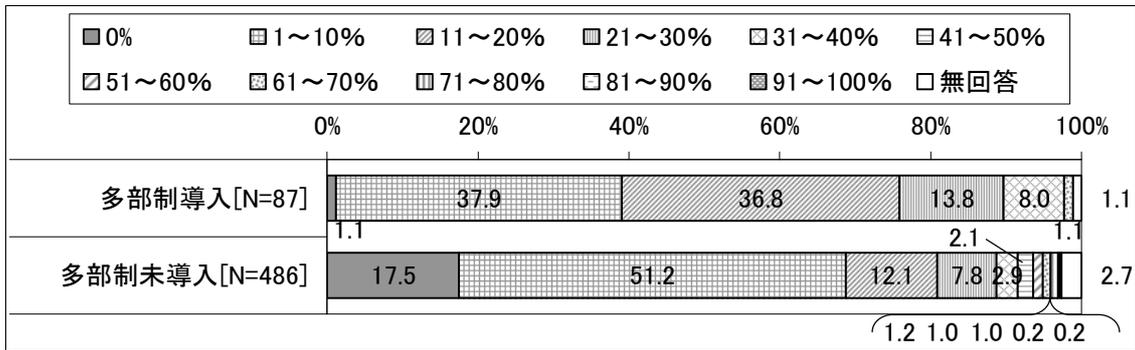
図表 32 卒業生数のうち就職者数の割合



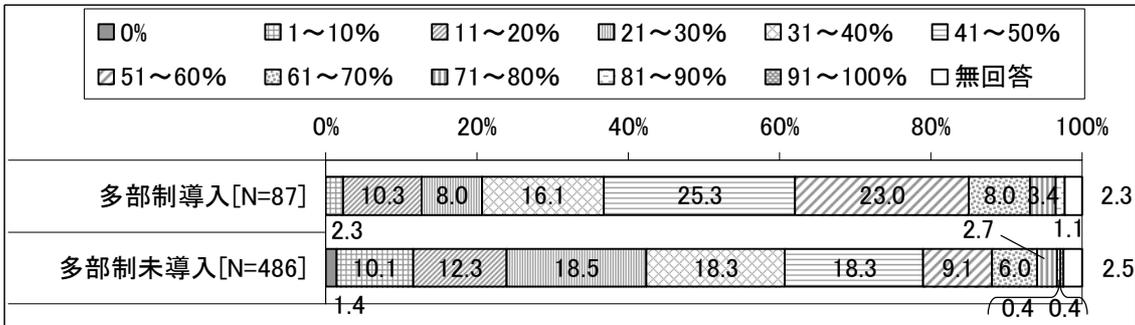
図表 33 卒業生数のうちその他の割合



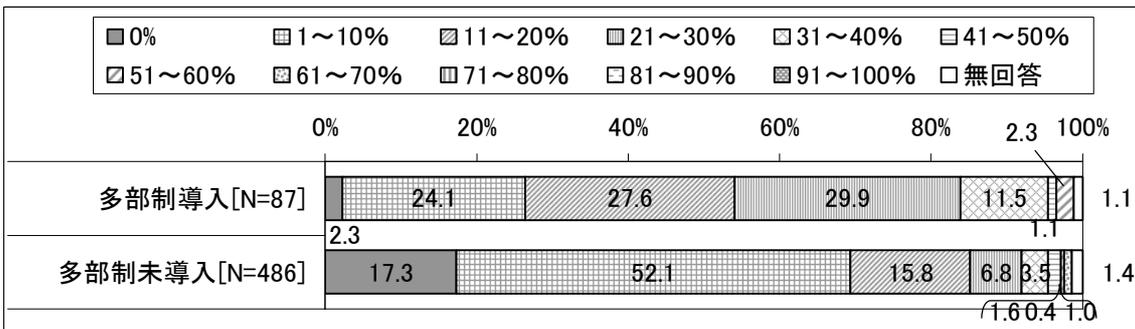
図表 34 特別な支援を必要とする生徒の在籍割合



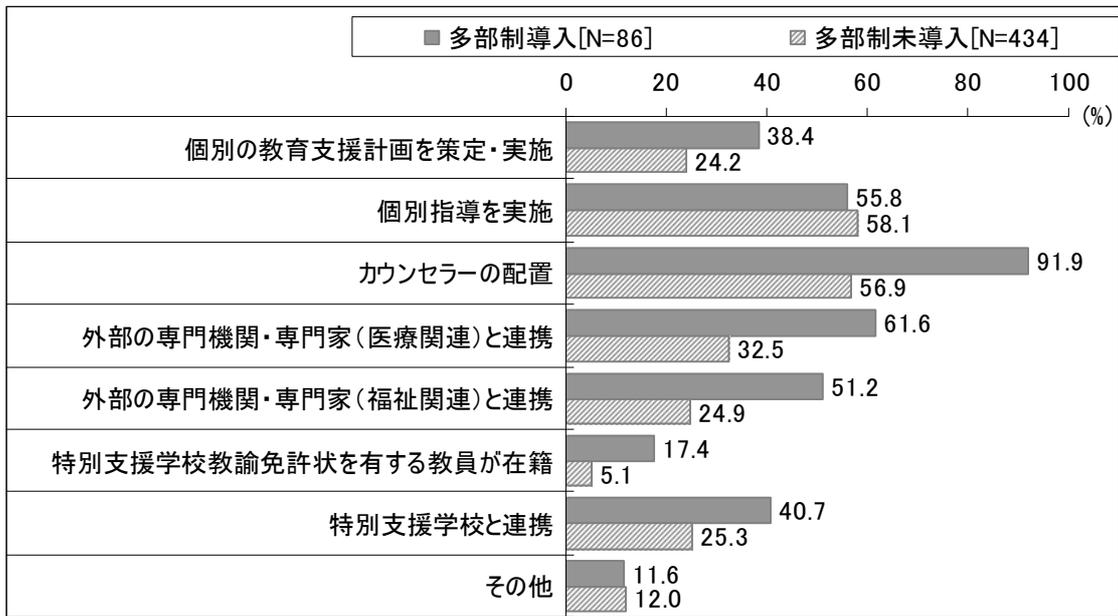
図表 35 前在籍校等で不登校経験を有する生徒の在籍割合



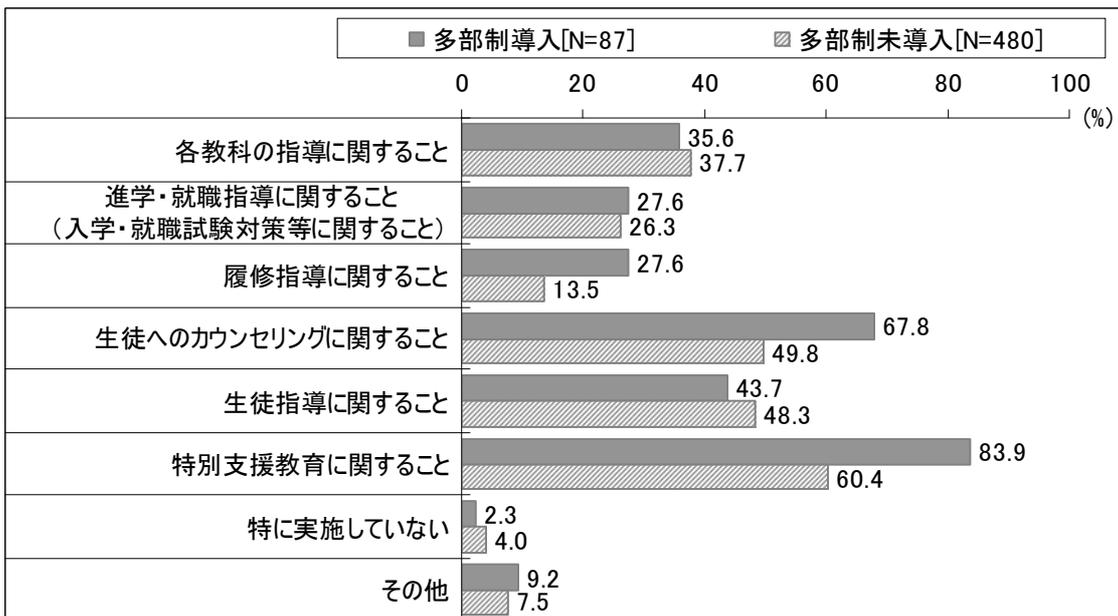
図表 36 不登校生徒の在籍割合



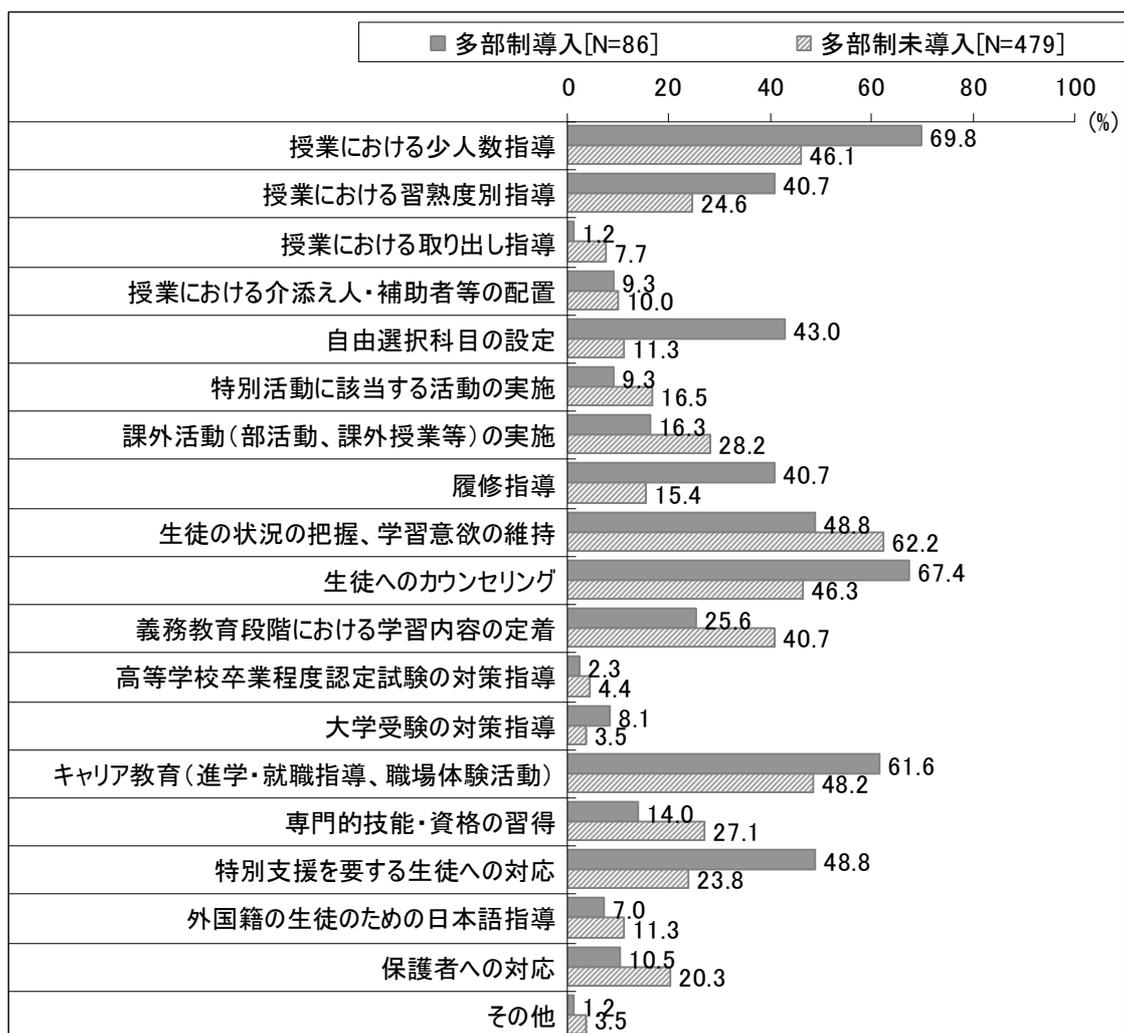
図表 37 特別な支援を必要とする生徒へ実施していること



図表 38 多様な生徒への対応のための教員研修・研究のテーマ(過去1年間の状況)

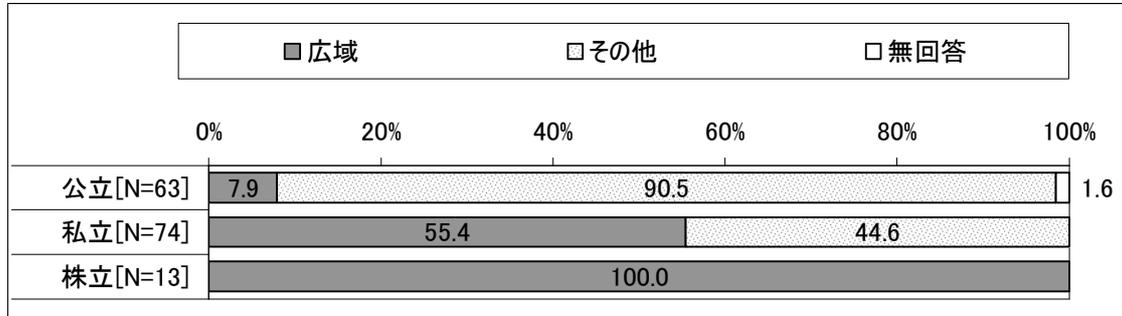


図表 39 特に重視している活動

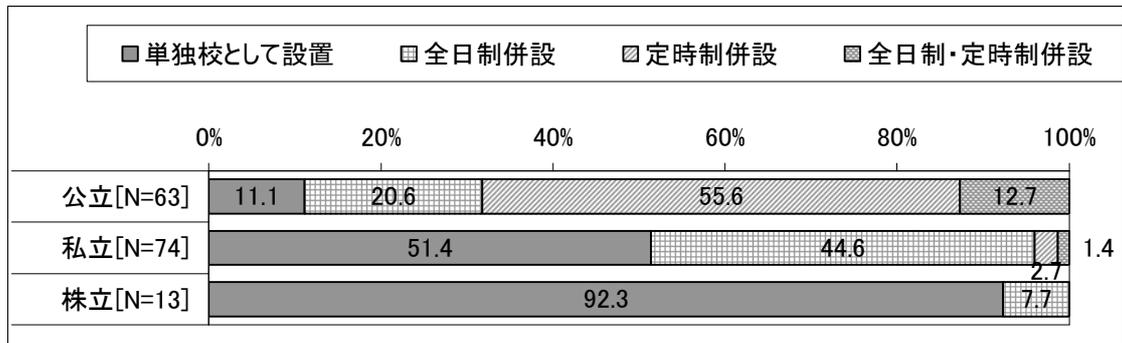


## 2.3 通信制課程(設置者別)

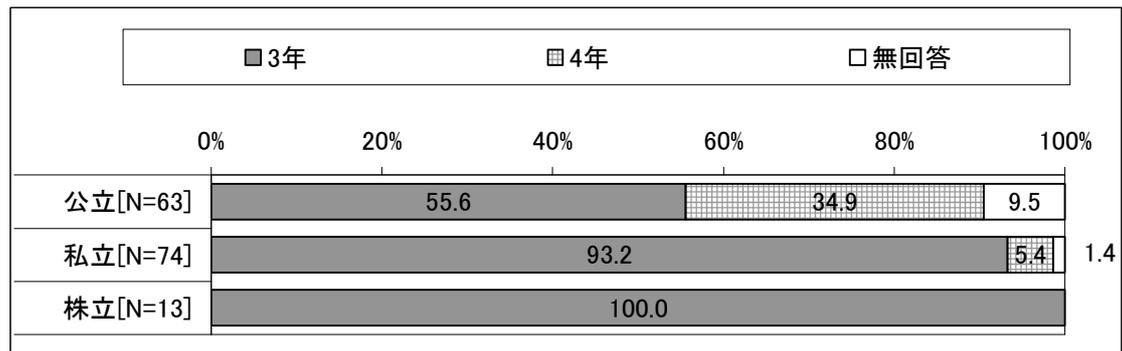
図表 40 通学区域



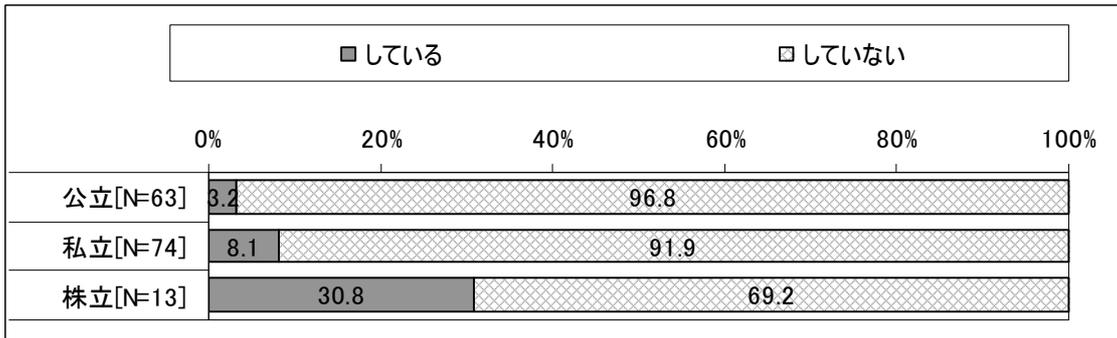
図表 41 併設された課程等



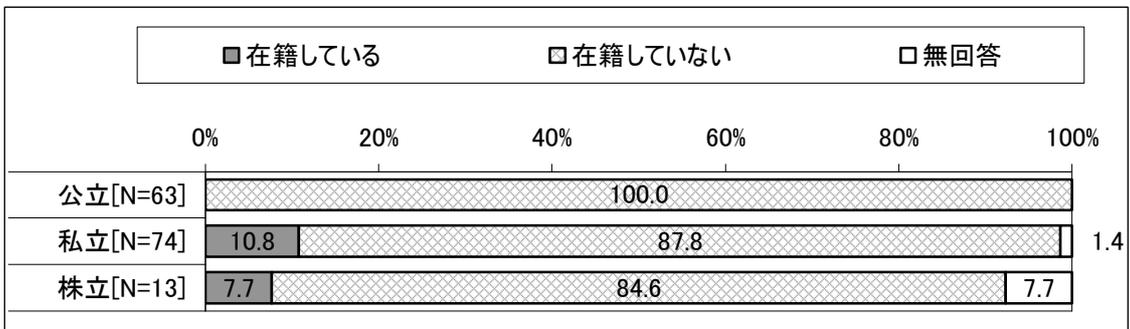
図表 42 修了年限



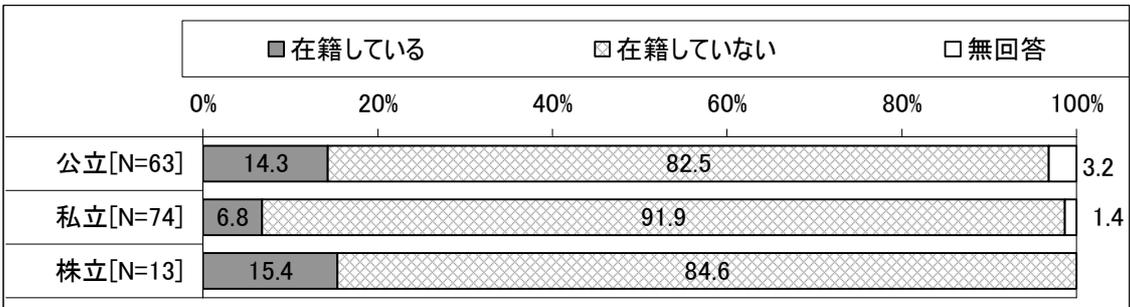
図表 43 面接指導時の寮または寄宿舍等の整備



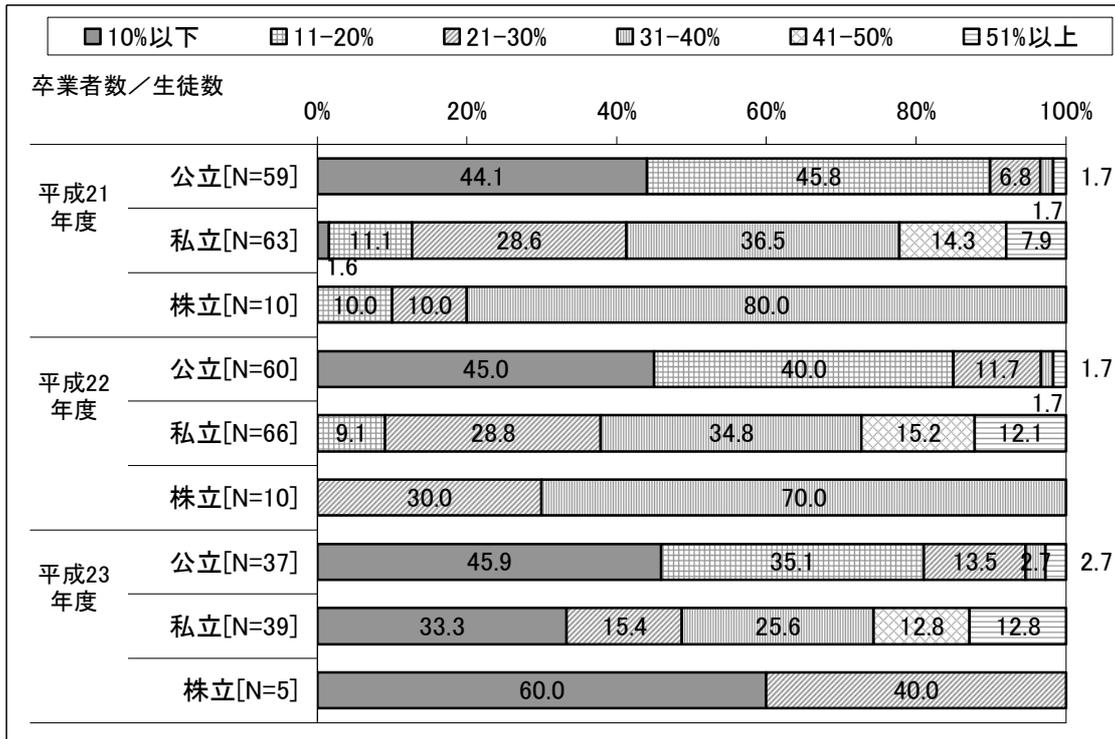
図表 44 海外在住生徒の在籍



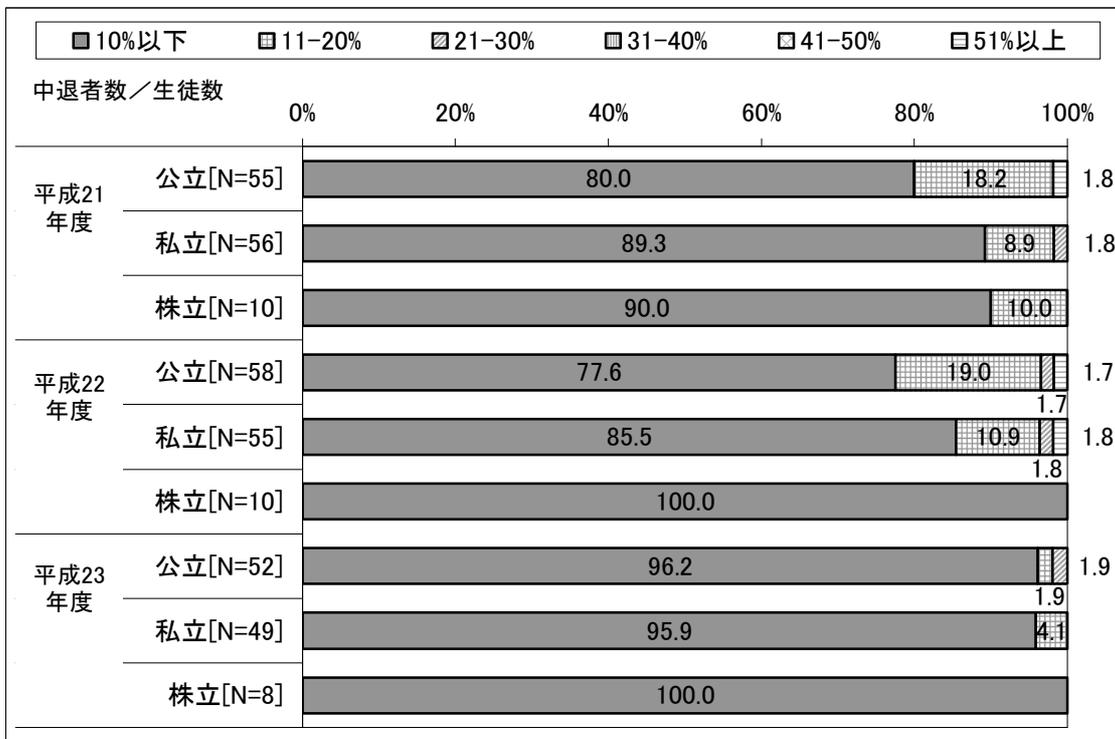
図表 45 日本語教育について支援を必要とする外国籍の生徒の在籍



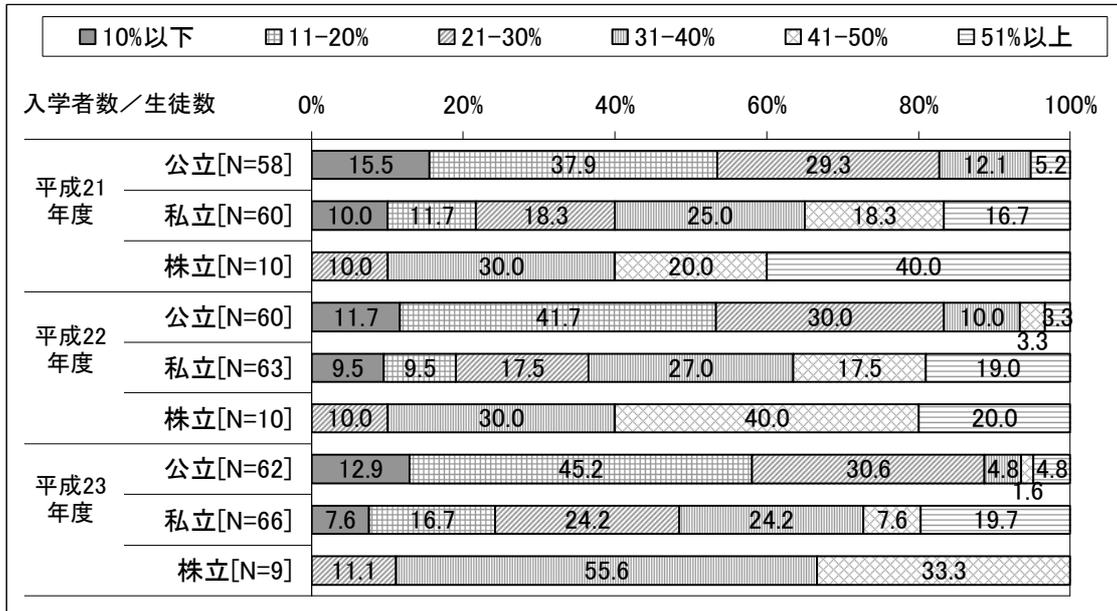
図表 46 生徒数に対する卒業生数の割合



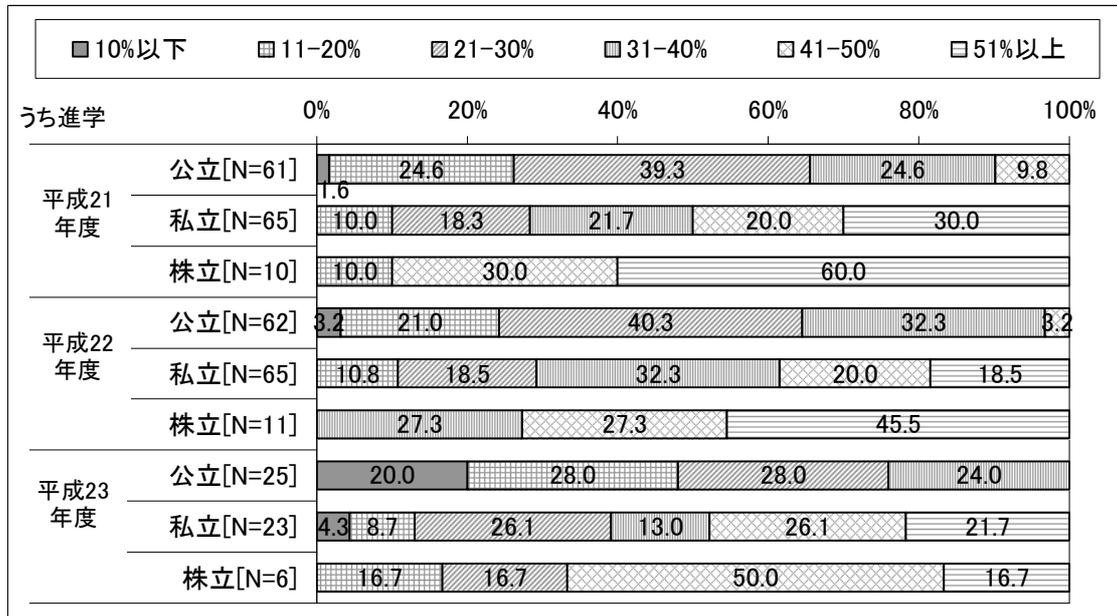
図表 47 生徒数に対する中退者数の割合



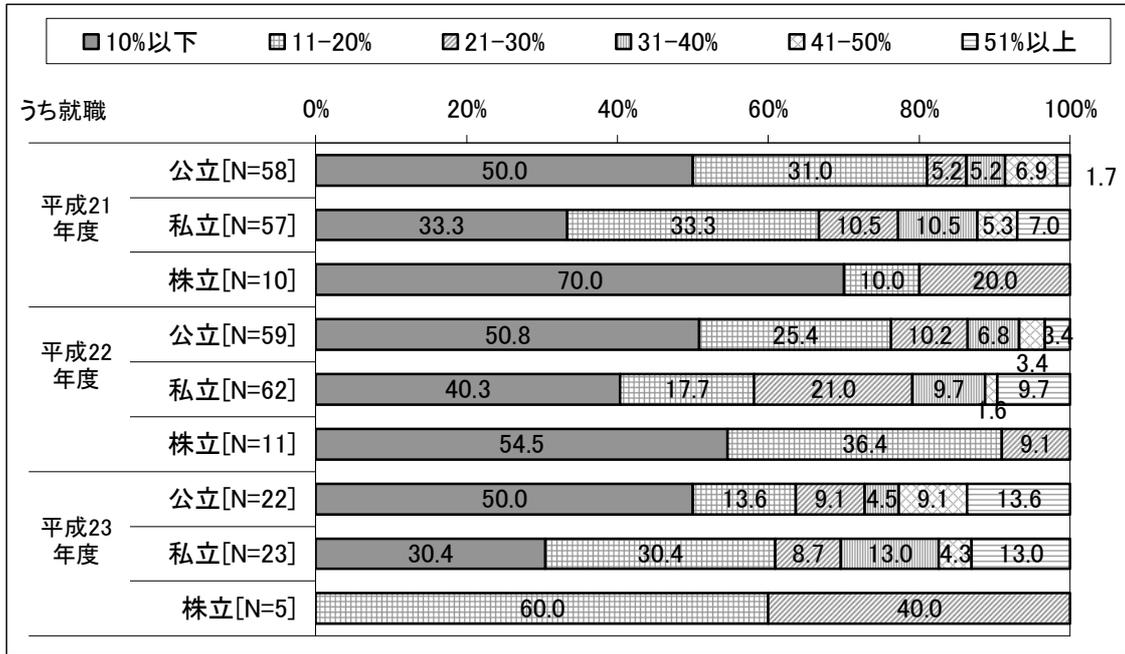
図表 48 生徒数に対する入学者数の割合



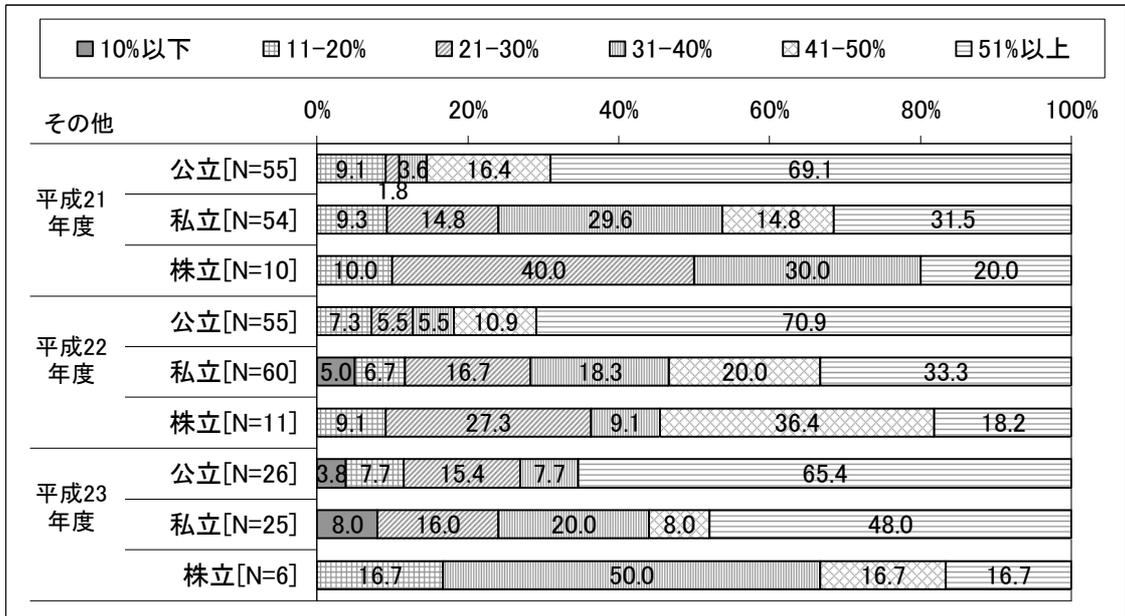
図表 49 卒業者数のうち進学者数の割合



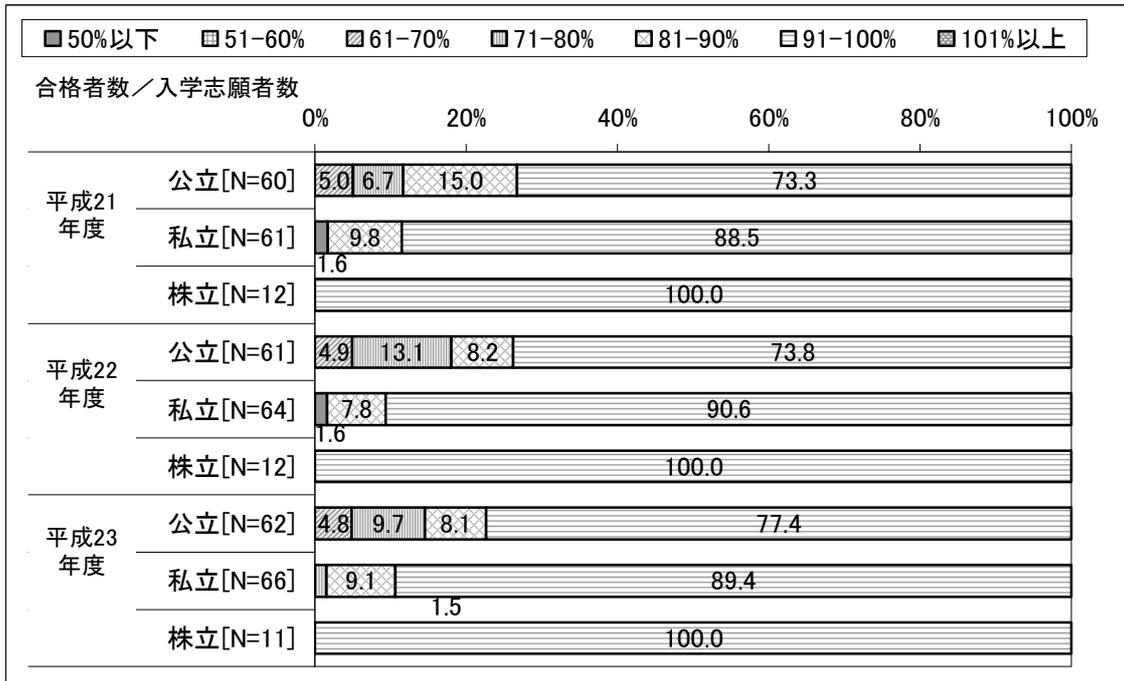
図表 50 卒業生数のうち就職者数の割合



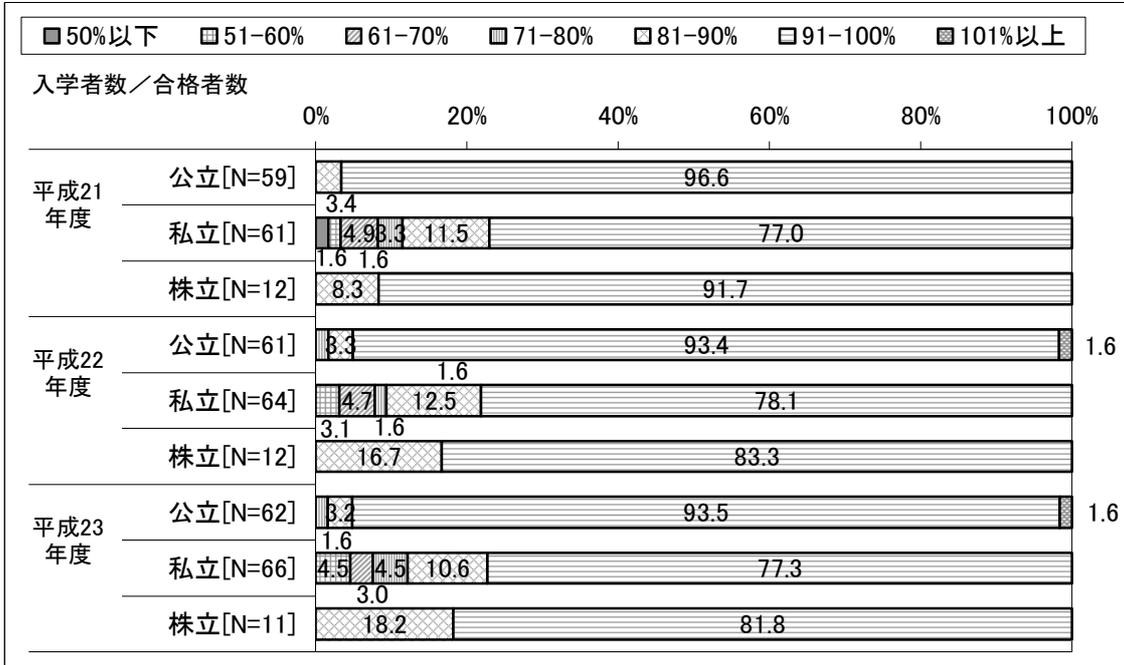
図表 51 卒業生数のうちその他の割合



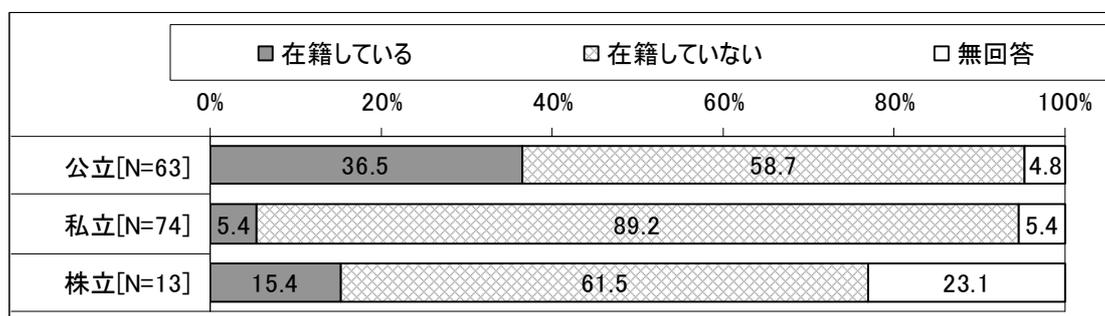
図表 52 入学志願者数に対する合格者数の割合



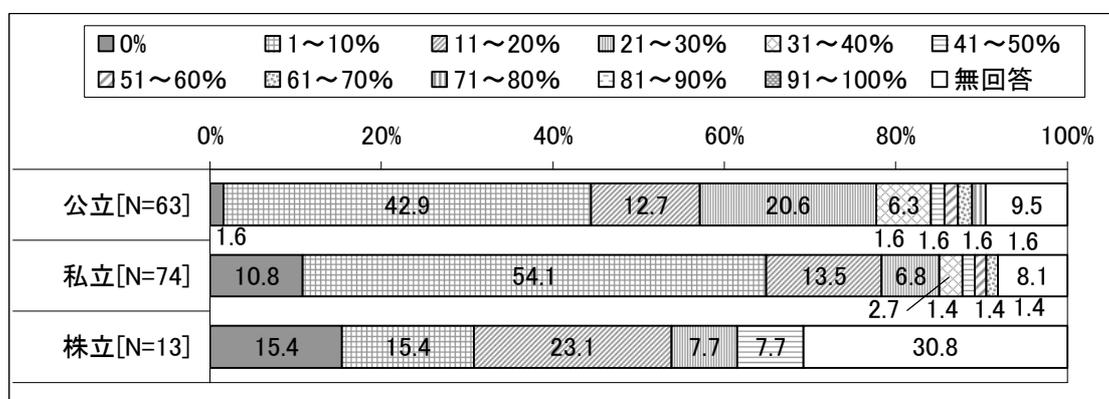
図表 53 合格者数に対する入学者数の割合



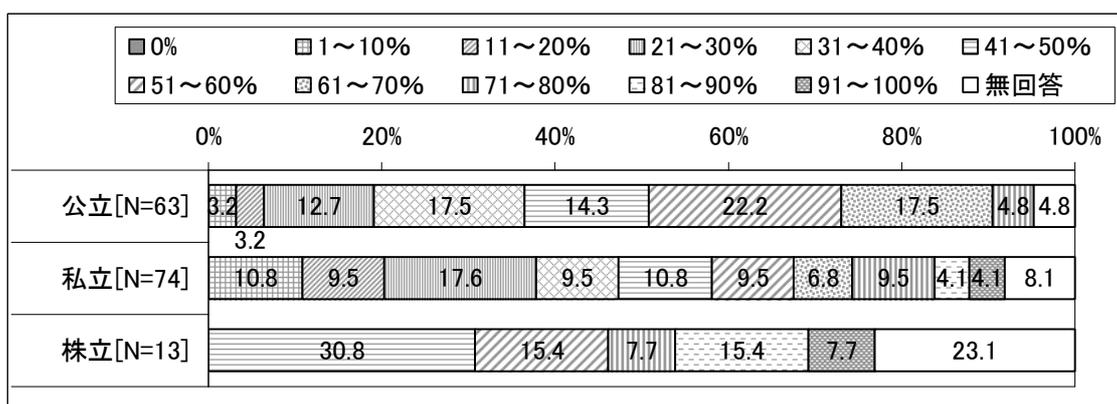
図表 54 病弱者(慢性の心臓、肺、腎臓などの疾患で、6か月以上の入院、または生活規制の必要な子ども)に該当する生徒の在籍



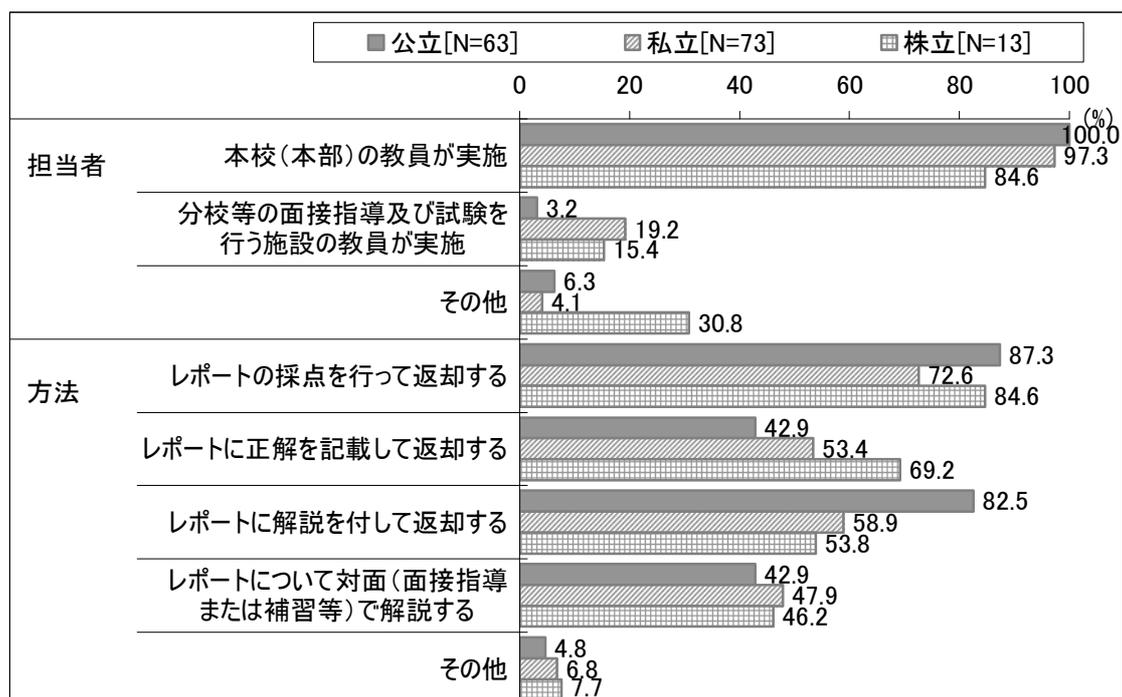
図表 55 特別な支援を必要とする生徒の在籍割合



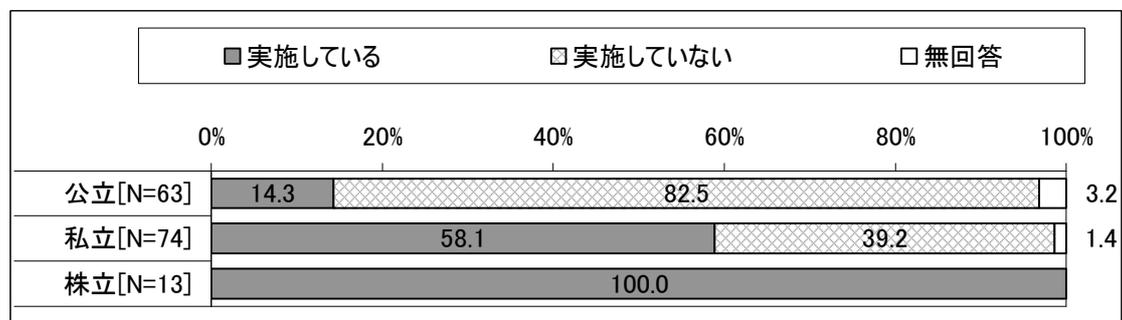
図表 56 不登校経験を有する生徒の在籍割合



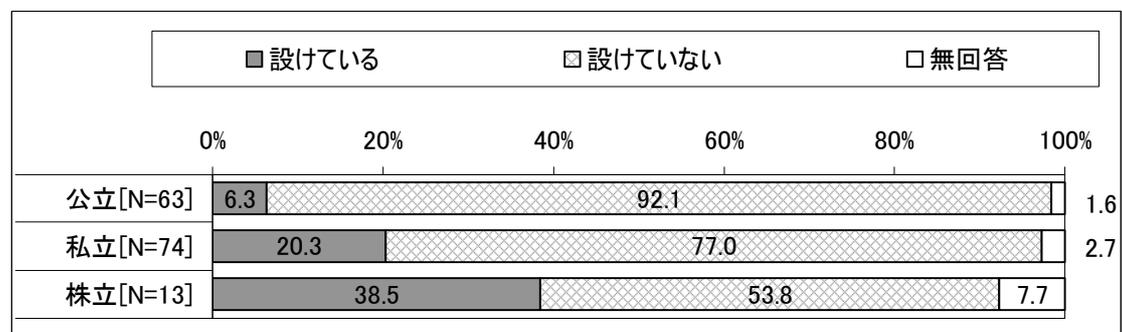
図表 57 添削指導の方法



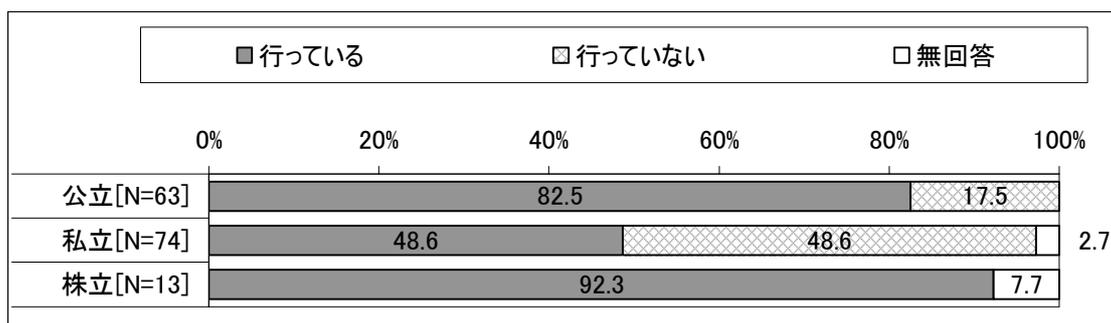
図表 58 集中スクーリングの実施の有無



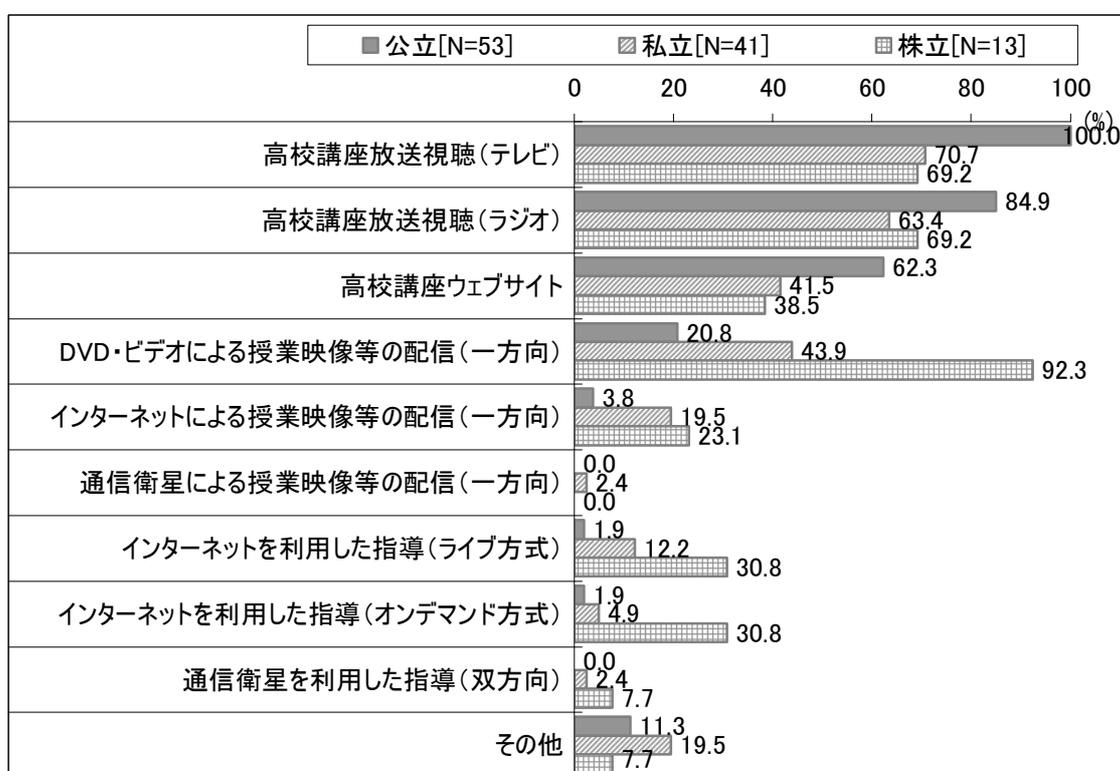
図表 59 同時に面接指導を受ける生徒数の下限・上限の有無



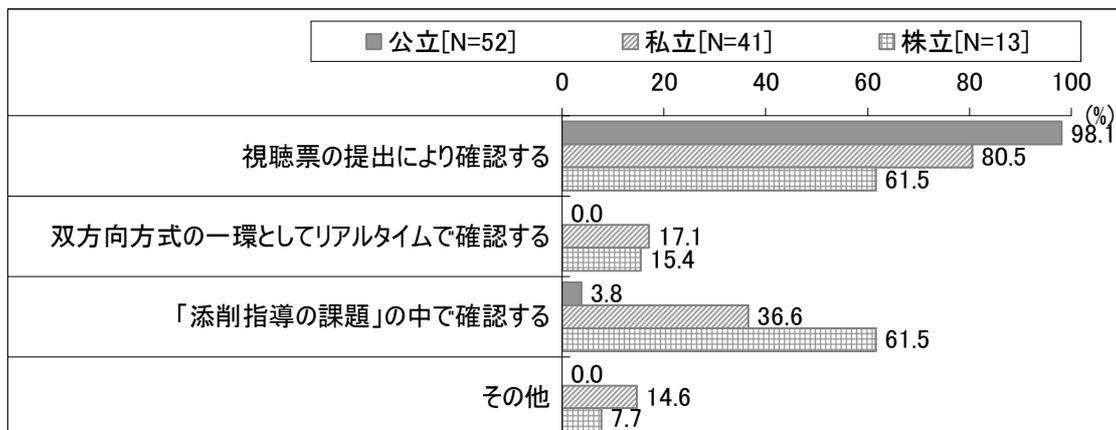
図表 60 メディアを利用した面接指導時間の免除



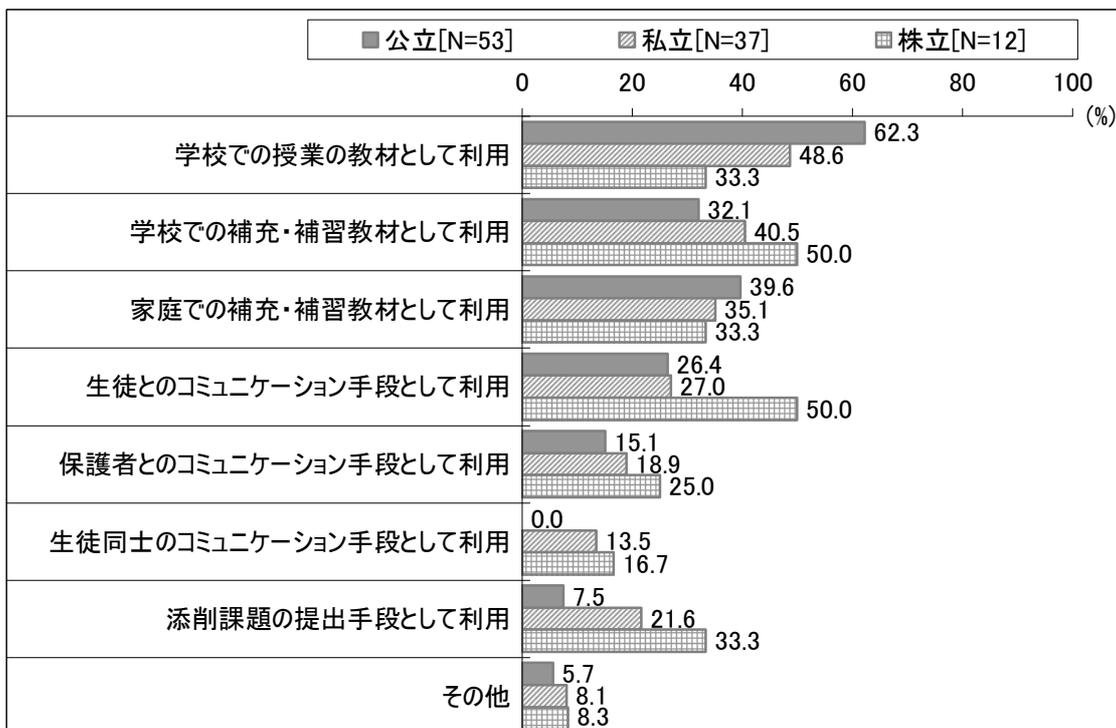
図表 61 免除に利用しているメディアの形態



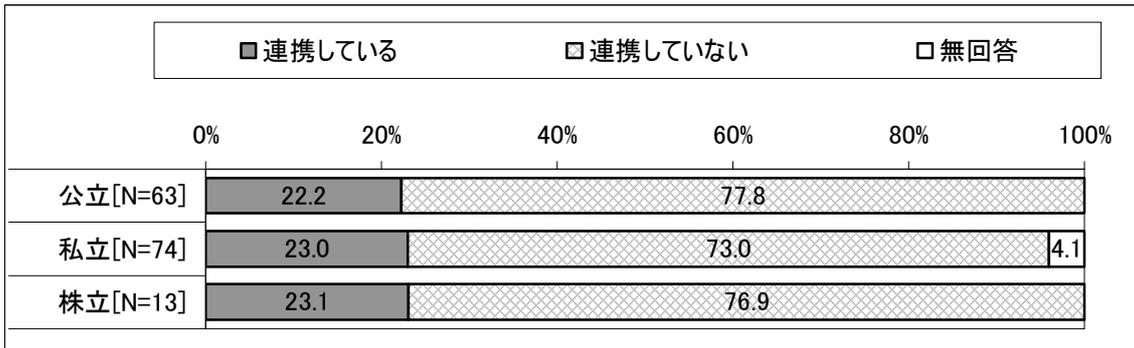
図表 62 メディア視聴の確認方法



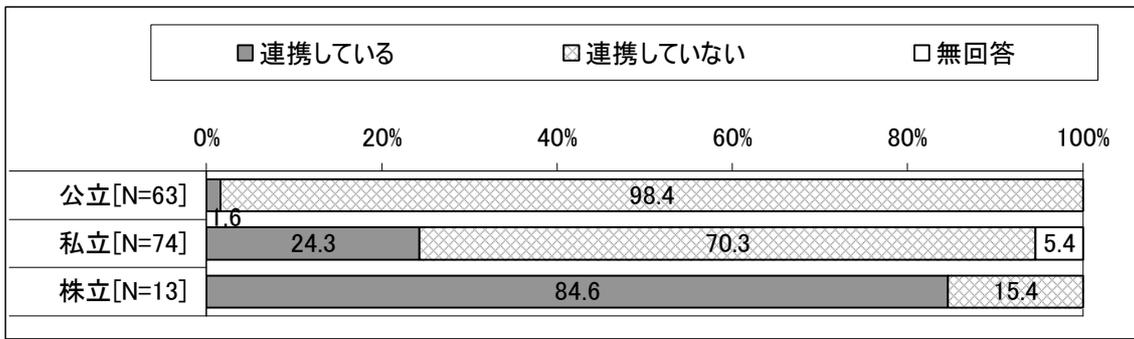
図表 63 「メディアを利用した免除」以外の用途におけるメディアやインターネット活用目的



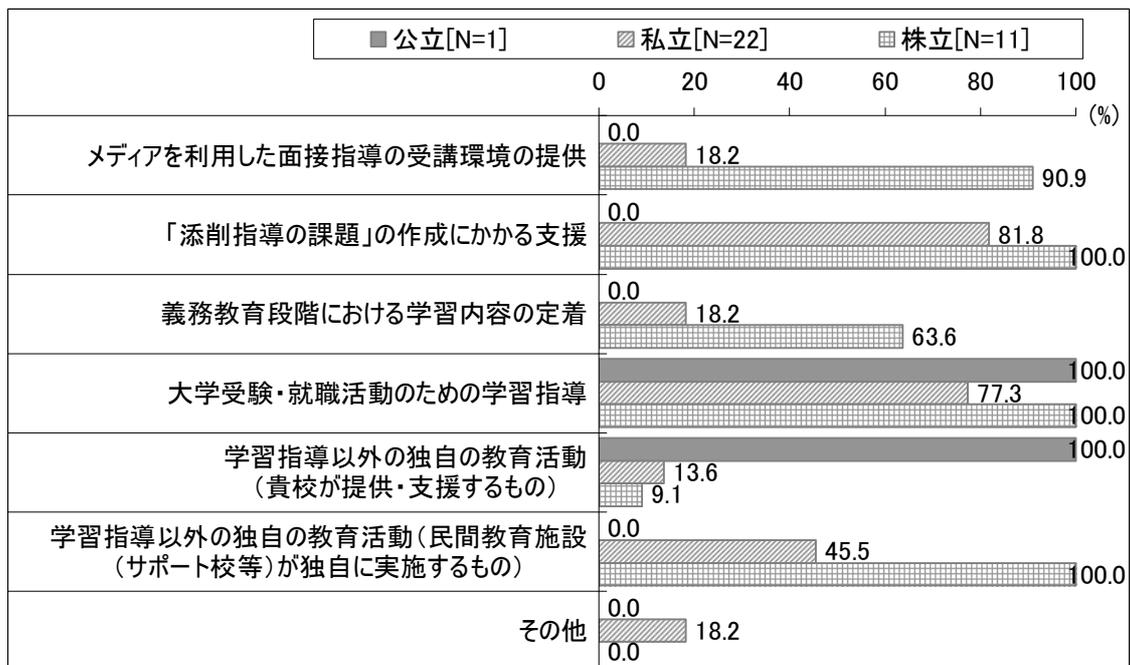
図表 64 技能教育施設との連携の有無



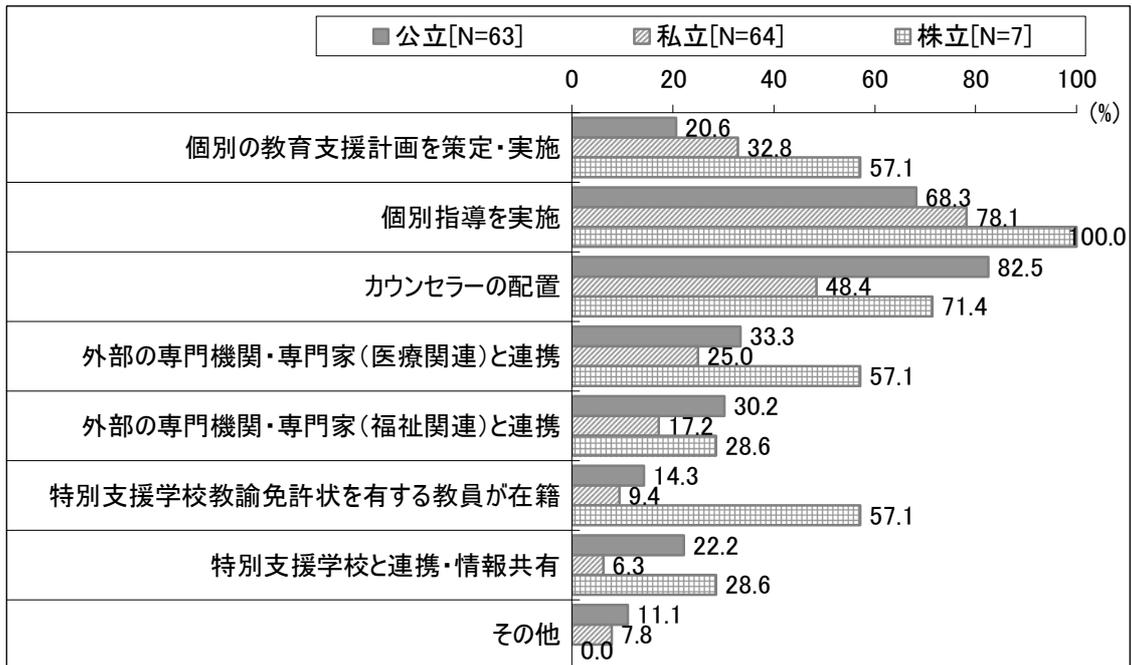
図表 65 民間教育施設(サポート校等)との連携の有無



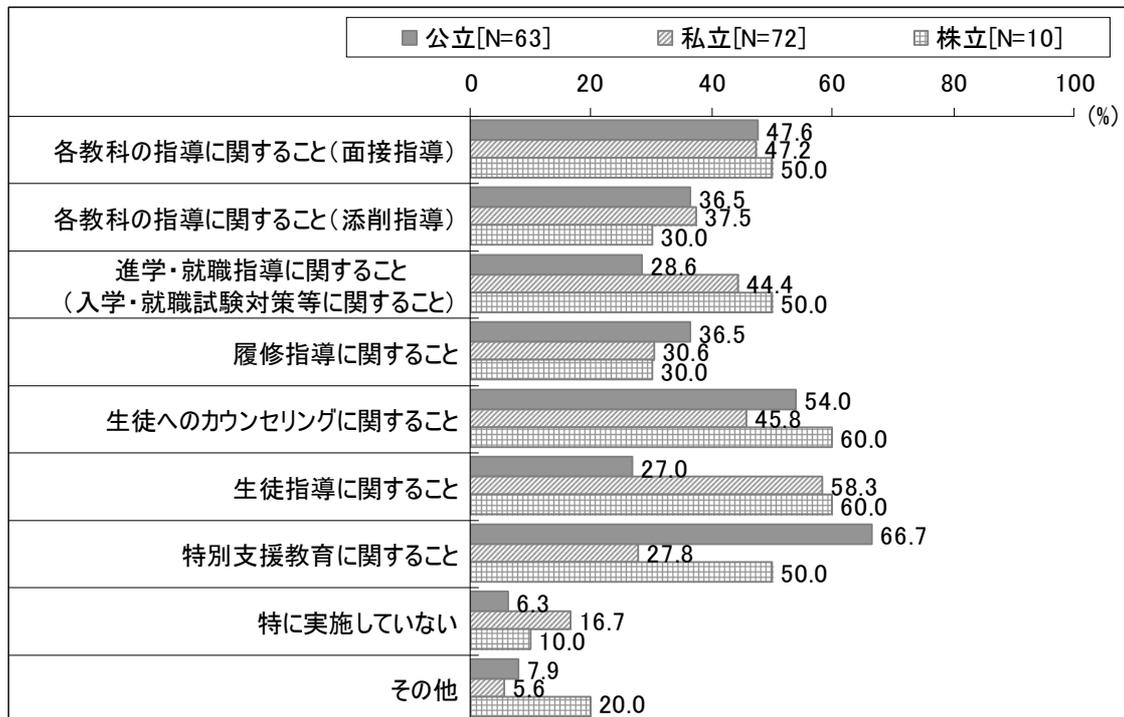
図表 66 連携する主要な民間教育施設(サポート校等)で行う教育活動



図表 67 特別な支援を必要とする生徒への対応について実施していること



図表 68 多様な生徒への対応のための教員研修・研究のテーマ(過去1年間の状況)



図表 69 特に重視している活動

